

基本計画書

基本計画										
事項	記入欄							備考		
計画の区分	大学の設置									
フリガナ設置者	ガッコウホクシントミダワカケン 学校法人 富澤学園									
フリガナ大学の名称	トホクブンキョウダガク 東北文教大学 (Tohoku Bunkyo College)									
大学本部の位置	山形県山形市大字片谷地515番地									
大学の目的	東北文教大学は、教育基本法及び学校教育法に基づき、学術の中心として、広く知識を授け、深く専門の学芸を教授研究し、知的、道徳的及び応用的能力を育成するとともに、「敬・愛・信」の建学の精神ののっとり人間性豊かな、真に社会に貢献しうる実践的な人間の育成を目的とする。									
新設学部等の目的	人間の行動を科学的かつ幅広く理解するとともに、人間の文化や社会に対する幅広い知識と深い洞察力をもち、保育・教育を総合的に研究し実践できる人材の育成を目指す。									
新設学部等の概要	新設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	開設時期及び開設年次	所在地		
	人間科学部 【Faculty of Human Sciences】	年	人	年次人	人		年 月 第 年次	山形県山形市大字片谷地515番地		
	子ども教育学科 【Department of Childhood Education】	4	90	3年次 10	380	学士 (教育学)	平成22年4月 第1年次 平成23年4月 第3年次			
	計		90	3年次 10	380					
同一設置者内における変更状況（定員の移行、名称の変更等）	平成22年4月より、山形短期大学子ども学科（△90）定員減（180→90） 平成22年4月より、山形短期大学 → 東北文教大学短期大学部 名称変更									
教育課程	新設学部等の名称	開設する授業科目の総数				卒業要件単位数				
	人間科学部 子ども教育学科	講義	演習	実験・実習	計	124単位				
教員組織の概要	学部等の名称			専任教員等					兼任教員等	
	新設	人間科学部子ども教育学科	教授	准教授	講師	助教	計	助手	兼任	
		計	9人 (7)	2人 (2)	7人 (7)	2人 (2)	20人 (18)	0人 (0)	61人 (59)	
	既設	該当なし	—	—	—	—	—	—	—	
		計	(—)	(—)	(—)	(—)	(—)	(—)	(—)	
合計		9人 (7)	2人 (2)	7人 (7)	2人 (2)	20人 (18)	0人 (0)	61人 (59)		
教員以外の職員の概要	職種		専任		兼任		計			
	事務職員		13人 (13)		1人 (1)		14人 (14)			
	技術職員		0人 (0)		0人 (0)		0人 (0)			
	図書館専門職員		1人 (1)		2人 (2)		3人 (3)			
	その他の職員		0人 (0)		4人 (4)		4人 (4)			
計		14人 (14)		7人 (7)		21人 (21)				

校 地 等	区 分	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計			東北文教大学短期 大学部と共用		
	校舎敷地	4,958.00 m ²	19,793.00 m ²	2,238.00 m ²	26,989.00 m ²					
	運動場用地	0.00 m ²	4,854.00 m ²	0.00 m ²	4,854.00 m ²					
	小 計	4,958.00 m ²	24,647.00 m ²	2,238.00 m ²	31,843.00 m ²					
	そ の 他	0.00 m ²	4,090.00 m ²	1,233.00 m ²	5,323.00 m ²					
	合 計	4,958.00 m ²	28,737.00 m ²	3,471.00 m ²	37,166.00 m ²					
校 舎		専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計			東北文教大学短期 大学部と共用		
		668.77 m ² (668.77 m ²)	11,091.97 m ² (11,091.97 m ²)	4,029.09 m ² (4,029.09 m ²)	15,789.83 m ² (15,789.83 m ²)					
教室等	講義室	演習室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設			大学全体 情報処理学習施設の中に 語学学習施設の機能を含 む(1室)		
	2 室	15 室	4 室	3 室 (補助職員 3人)	0 室 (補助職員 0人)					
専 任 教 員 研 究 室		新設学部等の名称		室 数						
		人間科学部 子ども教育学科		21 室						
図 書 ・ 設 備	新設学部等の名称	図書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕 種	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標本 点	大学全体での共 用分 図書96,877冊 〔7,825冊〕 学術雑誌 3,026冊 〔154冊〕		
	人間科学部 子ども教育学科	13,828 [527] (13,828 [527])	41 [5] (41 [5])	1 [1] (1 [1])	248 (248)	1,659 (1,659)	35 (35)			
	計	13,828 [527] (13,828 [527])	41 [5] (41 [5])	1 [1] (1 [1])	248 (248)	1,659 (1,659)	35 (35)			
図 書 館		面積		閲覧座席数		収 納 可 能 冊 数		大学全体		
		1,533.00 m ²		179		120,000				
体 育 館		面積		体育館以外のスポーツ施設の概要						
		1,970.53 m ²		フットサルコート 1面 -						
経 費 積 立 方 法 の 概 要	経 費 の 見 積 り	区 分	開設前年度	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次	図書購入費には 電子ジャーナル・データ ベースの整備費(運用 コスト含む) を含む。
		教員1人当り研究費等		400千円	400千円	400千円	400千円	-千円	-千円	
		共同研究費等		2,000千円	2,000千円	2,000千円	2,000千円	-千円	-千円	
		図書購入費	7,020千円	3,000千円	3,000千円	3,000千円	3,000千円	-千円	-千円	
	設備購入費	105,000千円	3,200千円	1,500千円	1,500千円	1,500千円	-千円	-千円		
	学生1人当り 納付金	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次			
	1,297千円	1,017千円	1,017千円	1,017千円	-千円	-千円				
学生納付金以外の維持方法の概要			私立大学等経常費補助金、資産運用収入、雑収入 等							
大 学 の 名 称		山 形 短 期 大 学								
既 設 大 学 等 の 状 況	学 部 等 の 名 称	修業 年限	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	学位又 は称号	定員 超過率	開設 年度	所 在 地	
	総合文化学科	2年	120人	-	240人	短期大学士 (総合文化学)	1.04倍	平成17 年度	山形県山形市大字 片谷地515番地	
	子ども学科	2年	180人	-	360人	短期大学士 (子ども学)	0.95倍	平成17 年度		
	人間福祉学科	2年	80人	-	160人	短期大学士 (人間福祉学)	0.89倍	平成13 年度		
附属施設の概要		山形城北高等学校(山形市肴町1-13、入学定員600名、現員1,270名) 山形短期大学附属幼稚園(※山形市大字片谷地515、収容定員210名、現員226名)								

※山形短期大学附属幼稚園は、大学と同番地であるが別地である。

学校法人富澤学園 設置認可等に関わる組織の移行表

平成21年度	入学 定員	平成22年度	入学 定員	変更の事由
		<u>東北文教大学</u> <u>人間科学部</u> <u>子ども教育学科</u> <u>3年次編入学</u>	<u>90</u> <u>10</u>	大学新設 平成22年4月1日開学予定
<u>山形短期大学</u>		<u>東北文教大学</u> <u>短期大学部</u>		平成22年度より名称変更予定
子ども学科	<u>180</u>	子ども学科	<u>90</u>	平成22年度より定員減
総合文化学科	120	総合文化学科	120	
人間福祉学科	80	人間福祉学科	80	

様式第2号(その2の1)

教育課程等の概要

(人間科学部子ども教育学科)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
基 礎 ゼミ	基礎ゼミⅠ	1前	1				○		5	2	2	2		
	基礎ゼミⅡ	1後	1				○		5	2	2	2		
	応用ゼミⅠ	2前	1				○		6	2	2	2		
	応用ゼミⅡ	2後	1				○		6	2	2	2		
基 礎 教 養	言語表現の基礎	1・2前		2			○		1					
	プレゼンテーション演習	3・4前		1			○		1					
	文章表現の技術	1・2後		2			○							兼 1
	くらしと論理学	1・2後		2			○							兼 1
	くらしと日本文学	3・4後		2			○							兼 1
	くらしと憲法	1・2前		2			○							兼 1
	くらしと経済	3・4前		2			○		1					
	くらしと現代企業	3・4後		2			○		1					
	社会を見る眼	3・4後		2			○							兼 1
	社会教育を考える	3・4前		2			○		1					
	異文化コミュニケーション	1・2前		2			○							兼 1 集中
	環境問題を考える	3・4後		2			○							兼 1
	生物学を知る	1・2前		2			○		1					
環境と生物を考える	1・2前		2			○		1						
生命と環境を考える	3・4後		2			○		1						
人間と宇宙を考える	3・4後		2			○							兼 1	
外 国 語	英語Ⅰ	3・4前		1			○							兼 1
	英語Ⅱ	3・4後		1			○							兼 1
	英語コミュニケーションⅠ	1前	1				○							兼 2
	英語コミュニケーションⅡ	1後		1			○							兼 1
	韓国語Ⅰ	3・4前		1			○							兼 1
	韓国語Ⅱ	3・4後		1			○							兼 1
	フランス語Ⅰ	3・4前		1			○							兼 1
	フランス語Ⅱ	3・4後		1			○							兼 1
体 育 健	スポーツサイエンスⅠ	3前	1					○			1			※講義
	スポーツサイエンスⅡ	3後		1				○			1			※講義
情 報 処 理	情報科学	1・2前		2			○					1		
	コンピュータ基礎演習	1前	1				○							兼 2
	コンピュータ応用演習	1後		1			○							兼 1
	インターネット演習	1・2後		1			○					1		
	表計算応用演習	3・4後		1			○					1		
マルチメディア演習	3・4後		1			○					1			
小計(36科目)		—	7	45	0	—		6	2	3	2	0	兼 16	—

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
専	子どもの理解	幼児理解の理論と方法	2後		2		○			1						
		発達心理学	2前	2			○			1						
		乳幼児心理学	2後		2		○				1					
		児童心理学	2後		2		○			1						
		小児保健Ⅰ	1前		2		○			1						
		小児保健Ⅱ	1後		2		○			1						
		小児保健実習	2前		1				○							兼
		小児栄養Ⅰ	2前		1			○								兼
		小児栄養Ⅱ	2後		1			○								兼
		門	保 育 系 教 育	保育内容研究Ⅰ	1前		1			○		1				
保育内容研究Ⅱ	1後				1			○		1						集中
保育内容研究（健康Ⅰ）	1前				1			○				1				
保育内容研究（健康Ⅱ）	1後				1			○				1				
保育内容研究（人間関係Ⅰ）	2前				1			○		1						
保育内容研究（人間関係Ⅱ）	2後				1			○		1						
保育内容研究（環境Ⅰ）	1後				1			○								兼
保育内容研究（環境Ⅱ）	2前				1			○								兼
保育内容研究（言葉Ⅰ）	1前				1			○								兼
保育内容研究（言葉Ⅱ）	1後				1			○								兼
保育内容研究（表現Ⅰ）	2前				1			○								兼
保育内容研究（表現Ⅱ）	2後				1			○								兼
乳児保育Ⅰ	1前				1			○				1				
乳児保育Ⅱ	1後				1			○				1				
障害児保育	2前				1			○								兼
養護原理Ⅰ	1前				2			○								兼
養護原理Ⅱ	1後				2			○								兼
養護内容Ⅰ	2前				1				○							兼
養護内容Ⅱ	2後				1				○							兼
科 の 基 礎	教 育 系			道徳	4後		2		○							
		国語Ⅰ（書写を含む）	3前	2			○			1						兼
		国語Ⅱ	3後		2			○				1				
		社会Ⅰ	3前		2			○								兼
		社会Ⅱ	3後		2			○								兼
		算数Ⅰ	3前		2			○				1				
		算数Ⅱ	3後		2			○				1				
		理科Ⅰ	4前		2			○								兼
		理科Ⅱ	4後		1				○							兼
		生活Ⅰ	4前		2			○			1					
		生活Ⅱ	4後		2			○			1					
		音楽Ⅰ	1前	1					○				1			兼
		音楽Ⅱ	1後		1				○				1			兼
		音楽Ⅲ	2前		1				○				1			兼
		図画工作Ⅰ	1前		1				○							兼
		図画工作Ⅱ	1後		1				○				1			兼
家庭Ⅰ	3前		2			○			1							
家庭Ⅱ	3後		2			○			1							
体育Ⅰ	1前		1				○				1					
体育Ⅱ	1後		1				○				1					
子どもの英語	3前		1				○							兼		

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考				
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手					
専門 科目 教 育 の 理 解	保育系	保育原理Ⅰ	1前	2		○			1									
		保育原理Ⅱ	1後	2		○			1									
		保育指導法総論	2前	2		○										兼	1	
		児童福祉	1前	2		○										兼	1	
		児童文化論	3前	2		○										兼	1	
		教育原理	2後	2	2		○			1								
		教育課程総論	2前	2			○			1								
		教育制度論	3前	2			○					1						
		教職概論	2後	2			○									兼	1	
		教育心理学	3後	2			○									兼	1	
		教育の方法と技術	2後	2			○					1						
	教育系	国語科教育法	3後	2			○					1						
		社会科教育法	3前	2			○									兼	1	
		算数科教育法	3後	2			○					1						
		理科教育法	4前	2			○									兼	2	
		生活科教育法	4後	2			○									兼	1	
		音楽科教育法	3後	2			○					1						
		図画工作科教育法	3後	2			○						1					
		家庭科教育法	3後	2			○			1								
		体育科教育法	3後	2			○									兼	1	
		道徳の指導法	3後	2			○									兼	1	
		特別活動の指導法	3前	2			○									兼	1	
	英語科教育法	3後	2			○									兼	1		
	生徒指導論	3前	2			○									兼	1		
	小計(73科目)	—	7	110	0	—	—	—	6	2	7	0	0	兼	36	—		
	専門 科目 発 展 支 援 目	人間と心理学の理解	総合演習	2後	2			○				2	1				兼	1
			心理学A	3・4前	2			○			1							
心理学B			3・4後	2			○			1								
知覚心理学			3・4後	2			○									兼	1	
学習心理学			3・4後	2			○									兼	1	
社会心理学			3・4前	2			○									兼	1	
心理統計学			3・4後	2			○									兼	1	
心理学実験演習A			3前		1			○								兼	1	
心理学実験演習B			3後		1			○								兼	1	
心理検査法			3・4前	2				○				1						
心理検査法実習		3・4後	1					○		1								
子育て支援		臨床心理学	3・4前	2			○				1							
		子育て支援論	3・4前	2			○				1							
		子育て支援実践	3・4後	1				○			1							
		教育相談	4後	2			○				1							
		育児文化論	3・4後	2			○									兼	1	
		家族心理学	3・4前	2			○									兼	1	
		家族援助論	3前	2			○									兼	1	
	精神保健	3後	2			○									兼	1		
社会福祉	1前	2			○									兼	1			
地域社会の理解	社会福祉援助技術Ⅰ	1後	1				○								兼	1		
	社会福祉援助技術Ⅱ	2前	1				○								兼	1		
	地域社会論	3・4前	2			○				1								
	地域作りとその手法	3・4後	1				○			1								
	青少年問題と社会教育	3・4前	2			○				1								
	生涯学習概論	3・4後	2			○				1								
	地域社会とボランティア	3・4前	2			○									兼	1		
	ボランティア活動	3・4後	1				○								兼	1		
地域社会史	3・4後	2			○									兼	1			
地域文化論	3・4後	2			○									兼	1			
地域と多文化	3・4後	2			○									兼	1			

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
専門 発展 科目	保育 ・ 教育 の 実践	保育実習事前事後指導A	1後	1				○			2				
		保育実習事前事後指導B	2前	1				○			2				
		保育実習 I A	2前	2					○	1	1	2			
		保育実習 I B	2前	2					○	1	1	2			
		保育実習 II A	2後	2					○	1	1	2			
		保育実習 II B	2後	2					○		1	2			
		教育実習事前事後指導A	3後	1					○			2			
		教育実習事前事後指導B	4前	1					○			2			
		教育実習 I	3後	2					○		1	2			
		教育実習 II	4前	2					○	1	1	2			
		教育実習 A	4前	2					○	1		2			
		教育実習 B	4前	4					○	1		2			
		教職実践演習 (幼稚園)	4後	2					○	1	1	1			兼 2
		教職実践演習 (小学校)	4後	2					○			2			兼 3
保育・ 教育 研究	指導案研究 A 指導案研究 B 指導案研究 C 乳幼児研究 法 幼小連携 総論 卒業研究 I 卒業研究 II 卒業研究 III 卒業研究 IV	2後	1				○							兼 1	
		3前	1				○			1					
		4前	1				○			2					
		3前	2			○			1					兼 2	
		4前	2			○			1					オムニバス	
		3前	2				○		7	2	5				
		3後	2				○		7	2	5				
		4前	2				○		7	2	5				
4後	2				○		7	2	5						
支 援	キャリア 演習 A キャリア 演習 B キャリア 演習 C	3・4前	1				○			2					
		3・4後	1				○			1					
		3・4前	1				○			1					
小計 (57科目)		—	8	88	2	—			8	2	7	0	0	兼 21	—
合計 (166科目)		—	22	243	2	—			9	2	7	2	0	兼 61	—
学位又は称号		学士 (教育学)		学位又は学科の分野			教育学・保育学関係								
卒業要件及び履修方法							授業期間等								
必修科目 : 基礎教育科目 7科目 7単位、専門教育科目 4科目 7単位、 (合計22単位) 専門発展科目 4科目 8単位 選択必修科目 : 基礎教育科目 (基礎教養) 4単位以上、 (合計22単位) 専門教育科目 (子どもの理解) 2単位以上、 専門教育科目 (保育・教育の基礎 保育系) 4単位以上、 専門教育科目 (保育・教育の基礎 教育系) 4単位以上、 専門教育科目 (保育・教育の理解 保育系) 2単位以上、 専門教育科目 (保育・教育の理解 教育系) 2単位以上、 専門発展科目 (人間と心理学の理解) 2単位以上、 専門発展科目 (子育て支援) 2単位以上、 専門発展科目 (地域社会の理解) 2単位以上、 卒業要件 : 基礎教育科目16単位以上 (含 必修: 7単位、選択必修: 4単位以上) 専門教育科目22単位以上 (含 必修: 7単位、選択必修: 14単位以上) 専門発展科目14単位以上 (含 必修: 8単位、選択必修: 6単位以上) 必修・選択必修科目52単位以上を取得し、かつ基礎教育科目、 専門教育科目、専門発展科目から合わせて72単位以上、総計 124単位以上を取得すること。 (履修科目の登録の上限: 42単位 (年間))							1学年の学期区分		2 学期						
							1学期の授業期間		15 週						
							1時限の授業時間		90 分						

授 業 科 目 の 概 要			
(人間科学部 子ども教育学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
基礎教育科目	入門ゼミ 基礎ゼミⅠ	演習形態の授業を通して、大学における学習・研究方法に関する基本的な知識とともに、設定された課題について、実際に文献を探索し、各種資料を収集する方法を習得させることを目標とする。各授業回における発表担当の受講者には設定された課題についてのレポートを事前に作成、配布させ、他の受講者にはこのレポートに関する文献調査をさせた上で、不明な点をまとめた質問票を作成させ授業内で質疑応答を行わせる。授業終了後は、質疑応答や質問票に対する回答、担当教員の助言等を踏まえた期末レポートを提出させ、授業目的の達成度を確認する。	
基礎教育科目	入門ゼミ 基礎ゼミⅡ	「基礎ゼミⅠ」に続き、演習形態の授業を通して、学習・研究方法に関する基礎的な知識、文献を探索し、各種資料を収集する方法により習熟させ、大学における学習・研究にふさわしい質疑応答の方法を身につけさせる。各授業回における発表担当の受講者に、設定された課題についてのレポートを事前に作成、配布させ、他の受講者にはこのレポートを踏まえ独自の調査を行った資料を各自作成させる。授業ではそれらを基に質疑応答を行い、その内容と担当教員の助言を踏まえた期末レポートを発表担当の受講者に提出させることで、授業目的の達成度を確認する。	
基礎教育科目	入門ゼミ 応用ゼミⅠ	演習形態の授業を通して、自分が調べた文献から問題点を整理し、説明できる能力を養うとともに、1つの問題点についてさまざまな角度から考察する能力を養うことを目標とする。発表担当の受講者には、具体的なテーマについて複数の文献を調べさせ、「何」が「どのように」問題となっているのかを示した資料を作成、配布させる。他の受講者にはこの資料を基にし独自の整理を行った資料を作成させ、授業の中で討論を行う。討論内容および担当教員の助言を踏まえて発表担当者に期末レポートを作成させ、授業目的の達成度を確認する。	
基礎教育科目	入門ゼミ 応用ゼミⅡ	「応用ゼミⅠ」に続き、演習形態の授業を通して、多方面から収集した文献を基に問題点を具体的に示し、論理的に説明する能力に習熟させること、他者と議論しながら総合的に考察する能力を高めること目標とする。発表担当の受講者に具体的なテーマについて文献を調査させ、問題点を系統的に示した資料を作成、配布させる。他の受講者にはこの資料を基に独自の調査と自己の見解を含めた資料を作成させ、授業の中で討論を行う。討論内容および担当教員の助言について、発表担当者に期末レポートを作成させ、授業目的の達成度を確認する。	
基礎教育科目	基礎教養 言語表現の基礎	講義形態の授業を通して、小学校国語科における教材研究、教育法の学習に先立ち、主要な作品、作家の言語表現の構造と方法、特徴について理解を深め、指導の基礎となる読解力と教材研究への応用力を養うことを目的とする。小学校国語科教材として採用されることの多い物語の中から独立した分析・考察を必要とする主要な作品を選び、各作品の構造と特徴、教材研究において問題とされてきたところについて詳細な考察を行う。授業内では、受講者による講義を踏まえた質問と討議を重視する。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
基礎教育科目	基礎教養 プレゼンテーション演習	演習形態の授業を通して、将来教師や保育士という職業人として社会生活を送るうえで欠かせない言語表現能力を養成することを目的とする。日常生活のコミュニケーション活動においては、口頭で意思疎通を図ることが最も多く使用される。多くの事例の分析により、論理的な思考方法、論理的な話し方、聞き方、問題解決の道筋、および論理的な文章の書き方について学ばせ、自分の伝えたいことを、与えられた時間内で効率よく伝達する、また、他者から伝達されたことを正確に受信し、共通理解の場を形成するトレーニングを行わせ、自分のコミュニケーション行為を振り返らせる。	
基礎教育科目	基礎教養 文章表現の技術	演習形態の授業を通して、読む側に受け入れられ、内容が伝わるメッセージの表現について習得させる。授業内で、受講者は、メールやマニュアル、アンケート用紙やニュースレターからレポート執筆にいたるまで、さまざまな状況を想定した文章表現の演習を繰り返す。そのことで、「自分がうまく文章を書く」ことばかりにとらわれない、読む側と状況に配慮した文章表現を身につけさせる。	
基礎教育科目	基礎教養 くらしと倫理学	講義形態の授業を通して、現代社会で問題になっている倫理的諸問題について考察させることを目的とする。現代では、科学技術が発展し、人間が「やれること」は急速に増大している。しかし、「やれること」のすべてが「やってよいこと」ではない。安全性、プライバシー、死生観、環境倫理等の具体的な事例分析を通して、現代社会で生活していく上で「やってよいこと」と「やってはいけないこと」について、倫理的に考える態度を習得させる。	
基礎教育科目	基礎教養 くらしと日本文学	講義形態の授業を通して、日本の古典文学の中で子どもがどのように描かれてきたか、子どもを描くことが作品の中でどのような意味を持っていたかについて明らかにし、日本文化の中で子どもの持つ意味の多様性を学ばせるとともに、文学史の基礎知識を身につけさせることが目的である。題材としてとりあげるのは、万葉集や源氏物語、中古の日記から軍記、近世の俳諧に至る、上代から近世までの主要な作品である。	
基礎教育科目	基礎教養 くらしと憲法	講義形態の授業を通して、くらしが憲法とどのようなつながりを持って存在し、運用されているか、また、そのなかでどのような問題点、課題があるかについて、具体的な事例をもとに考えさせることを目的とする。国政は、憲法にしたがって運営されなければならない。その意味で、主権者である国民は、憲法がどのような基本理念から成り立ち、どのような仕組み、内容を持つかについて十分に理解しておく必要がある。国民主権、基本的人権、平和主義等の理念について、具体的な事例に即して講述する。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
基礎教育科目	基礎教養 くらしと経済	講義形態の授業を通して、「中央卸売市場」の機能と役割を理解することで、日常生活で必要不可欠な経済流通についての知識と思考力を身につけさせることが目的である。ゲスト・スピーカーから実際の卸売市場の経営内容を学ばせ、それを踏まえて、受講者に47都道府県の中央卸売市場の活動状況をまとめ、発表させる。地産地消と産直の実態、食料自給率、温暖化と食料危機等についても講述し、それについてのグループ討議を行わせる。	
基礎教育科目	基礎教養 くらしと現代企業	講義形態の授業を通して、受講者に日本の「産業のしくみ」を理解させることを目的とする。そのために、産業構造を理解するのに必要な統計資料等をテキストとして編集し、配布資料とする。同時に統計の読み方も学習する。その上で、人口の動態とその推移、GDPの国際比較、エネルギー資源の国際環境、日本産業の中核部分たる機械工業・自動車産業・コンピューター産業の概要、日本の工業地帯、激動する地域商圏等の具体的な課題について講述する。	
基礎教育科目	基礎教養 社会を見る眼	講義形態の授業を通して、「目に見えないけど人々が共有しているルール」、すなわち「文化」や「慣習」について理解し、それを相対的に見る視点を身につけさせることを目的にする。授業では、社会学の基本的な考え方、ものの方を理解させた後、その視点から、私たちの社会を「私（家族・労働）」「地域（国民国家・都市・農村）」「運動（環境問題・福祉・まちづくり）」という3つの側面から考え、その中における目に見えないルールについて認識、説明ができるように指導する。	
基礎教育科目	基礎教養 社会教育を考える	講義形態の授業を通して、私たちの生活を切り開いたり、高めたりするために行われる社会教育活動について理解させることを目的とする。身近な地域社会でそうした実践が取り組まれていることを知るために、東北の社会教育研究会がまとめた東北の諸実践の報告となるテキストを用い、岩手の農業教育、山形の多文化共生の地域づくり、青森の公民館活動等の具体的な事例に即した分析を行い、社会教育活動の意義について受講者に認識させる。	
基礎教育科目	基礎教養 異文化コミュニケーション	講義形態の授業を通して、多くの民族・文化が存在し、物、金融、人々が相互に依存しあう世界において、それぞれが責任ある生き方をするために不可欠な知識、姿勢、技能としての異文化コミュニケーションスキルを身につけられるよう指導する。前提的な知識として世界の現状、日本とアジアとの関係、国際交流/協力等を概説した後、文化の多様性と異文化コミュニケーションについて具体的に理解させるための体験学習・ディスカッションを行う。VTR・シミュレーションゲーム等をも用いた体験的知識の獲得を重視する。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
基礎教育科目	基礎教養 環境問題を考える	講義形態の授業を通して、環境問題を理解し、主体的に環境生活を考え実践できる力を育成する。日本を含む世界中で環境の悪化に伴って起こっている問題の解決には、私達自身の暮らし方を変える必要がある。どうしたら環境にやさしく自然にやさしく生きられるのか、今後、どんな取り組みを進めたらいいのか、自分達ができる環境生活とは何かを、実際に環境改善をテーマに活動しているゲストスピーカーの招聘、環境問題解決に向けた取り組みの体験、ワークショップなどを通して受講生に理解させる。	
基礎教育科目	基礎教養 生物学を知る	講義形態の授業を通して、生物の仕組みについて探究する生物学について、細胞を基本にして概説する。まず、生命の基本単位である細胞について、生命誕生に関わる様々な説を踏まえた基本的な理解を深められるように指導する。それを基に、生命体を支える分子、統合された細胞の営み、子孫を増やす仕組み、遺伝の仕組み等についての体系的な知識を養い、生物、そして生きていること精巧さと複雑さについて考える力を育成する。	
基礎教育科目	基礎教養 環境と生物を考える	講義形態の授業を通して、「環境」という言葉を、生物学的な立場から概説し、受講者に科学的に理解させることが目的である。この地球上には単細胞生物、多細胞生物を含む多様な生き物が生きていることについて、その生息環境の重要性について理解させるとともに、ヒトが健康に生きていくための体内環境維持の仕組みについて理解を深めさせる。あわせて、変動する環境下での植物の生存戦略等を分析例としながら、環境保護の重要性についても理解をさせる。	
基礎教育科目	基礎教養 生命と環境を考える	講義形態の授業を通して、有性生殖に焦点を当て、卵と精子が形成される体内の環境、卵と精子の放出に必要な体内環境、環境による受精方法の多様性など、新しい生命の誕生を巡る様々な環境について理解を深めさせることが目的である。生物は、生物を取り巻くさまざまな環境の中で繁殖を行っている。特に、ヒトを含めた多細胞生物の有性生殖は、生殖細胞である卵と精子の合体、即ち受精という極めて精巧な方法によって営まれている。これらの事項について講述しながら、環境ホルモンの危険性についても言及し、生命と環境を考えさせる。	
基礎教育科目	基礎教養 人間と宇宙を考える	講義形態の授業を通して、我々の住む宇宙を科学的に理解していく学問としての天文学の基礎を理解させることが目的である。受講者が宇宙を科学的に理解することで、生命観・自然観・人生観を考える契機を与える。古代以来の宇宙観の変遷を踏まえ、月のみちかけ、天体の運行と時間、光の性質、恒星の特質、銀河の形状と運動の関係、宇宙の誕生と進化等の具体的な事項について科学的な観点から講述する。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
基礎教育科目	外国語 英語 I	演習形態の授業を通して、生活用具や場所の名称など日常的なボキャブラリーを学ばせつつ、とりわけ子どもの生活に関わる英語表現を習得させることを目的とする。また、マザーグースなどの欧米における児童文化にも触れさせ、より実践的な英語理解を深めさせる。さらに、文章読解や作文のエクササイズが含まれたテキストを利用し、バランスよく英語の技能を伸ばす。授業においては、リーディングからロールプレイによる会話練習に至るまで多様な活動を行い、毎回小テストないし課題によって習熟度の確認を行う。	
基礎教育科目	外国語 英語 II	演習形態の授業を通して、英語新聞の記事が難なく読めるレベルの英語力を育成することを目的とし、主にボキャブラリーとリーディング力の強化を図る。また、学生時代に経験するような人間関係を扱うテキストを使用することで、コミュニケーションに対する視野の拡大もねらう。最終的には、コミュニケーションに関して自らの意見を英語で表現できる力を身につけさせる。授業においては、ボキャブラリービルディングとリーディングスキルの習得に重点が置き、毎回小テストないし課題によって習熟度の確認を行う。	
基礎教育科目	外国語 英語コミュニケーション I	演習形態の授業を通して、日常の英会話、及び子どもへの英語教育を教授する。最初に、全ての受講者は高等教育までに多くの時間をかけて英語を既に学んできていることから、受講生がその学びを振り返り、本授業に活かすことができるように、テーマを設定し、教員と受講者間・受講者間の英会話を行うことで確認する。次に、子どもが関与する日常会話や活動を題材にした初歩的な設定場面を英会話で行う中で、それらの場面に円滑に対応できるように指導する。	
基礎教育科目	外国語 英語コミュニケーション II	演習形態の授業を通して、英語コミュニケーション I で学んだことを発展させ、日常の英会話、及び子どもへの英語教育をより深く教授する。テーマを設定した教員と受講生間・受講生間の英会話でこれまでの学びを確認しつつ、子どもが関与する日常会話や活動を題材にした初級レベルの設定場面を英会話で行う中で、それらの場面に円滑に対応できるように指導する。加えて、英会話を円滑に行うための非言語コミュニケーションの手法を検討させることで、英語での自己表現への習熟が図れるように指導する。	
基礎教育科目	外国語 韓国語 I	演習形態の授業を通して、韓国固有の文字ハングルの特徴を理解させ、その発音や書き方について学ばせることを目的とする。最初はハングルの基本文字と発音（母音、子音、終声等）を覚えさせ、読み書きできるように繰り返し練習を行う。受講者が文字に慣れてきたら、韓国語で自己紹介やあいさつなど簡単な会話の演習を行う。また、授業の中では、様々な韓国の文化や習慣などにも触れる機会を設け、韓国理解を深める。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
基礎教育科目	外国語 韓国語Ⅱ	「韓国語Ⅰ」に続き、演習形態の授業によって、韓国語の基本的な会話を通して、話し言葉によるコミュニケーションの力がつくように指導する。とりわけ、日常生活でよく使われる表現（数字、日付、曜日、時間、値段など）に受講者が習熟し、形容詞の基本形・丁寧形・否定形の作り方を身につけることで、これらを中心に身近なことや言いたいことを組み合わせることで話ができる力を養う。また、韓国事情にもできるだけ触れ、理解を深める。	
基礎教育科目	外国語 フランス語Ⅰ	演習形態の授業を通して、フランス語のやさしい会話や文法を修得させる。発音練習、文法事項の学習や確認、会話表現を用いての実演、というテキストによる学習を中心とする。発音とアルファベット、挨拶表現、冠詞、指示形容詞、所有形容詞、動詞の活用と表現、前置詞と定冠詞の縮約形、場所・方向の表現、部分冠詞など、順序よく必要事項を習得させつつ、映像視聴やシャンソンの鑑賞等を通してフランスの歴史や文化への理解も深めさせる。	
基礎教育科目	外国語 フランス語Ⅱ	「フランス語Ⅰ」に引き続き、演習形態の授業を通して、フランス語の基礎力完成をめざす。発音練習、文法事項の学習や確認、会話表現を用いての実演、というテキストによる学習を中心とする。疑問副詞・疑問形容詞・疑問代名詞、数字に関わる表現、比較表現、非人称構文、手紙表現等、順序よく必要事項を習得させつつ、映像視聴やシャンソンの鑑賞等を通してフランスの歴史や文化への理解もさらに深めさせる。	
基礎教育科目	保健体育 スポーツサイエンスⅠ	講義と演習の授業形態を通して、生涯にわたる健康についての知識を教えるとともに、さまざまなスポーツ種目を通して、それぞれのルールと運動特性、基本技術、ゲームの運営方法について教授し、生涯スポーツの基礎となる知識、技術、体力を獲得できるように指導する。飲酒と喫煙・肥満とダイエット・食事と栄養がテーマの講義、及びインディアカ・フットサル・バドミントンの3種目について各3回の演習を最終的なゲームの運営に向けて段階的に行う。	
基礎教育科目	保健体育 スポーツサイエンスⅡ	講義と演習の授業形態を通して、生涯にわたる健康についての知識を教えるとともに、様々なスポーツ種目を通して、それぞれのルールと運動特性、基本技術、ゲームの運営方法について教授し、生涯スポーツの基礎となる知識、技術、体力を獲得できるように指導する。体力トレーニング・スポーツ心理・ケガと救急法がテーマの講義、及びバレーボール・タグラグビー・バスケットボールの3種目について各3回の演習を最終的なゲームの運営に向けて段階的に行う。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
基礎教育科目	情報処理 情報科学	講義形態の授業を通して、「情報」という言葉を徹底的に探ることで、「情報化社会」に生きる我々がどのような空間の中で生きているかを考えてさせることを目的とする。前半は、情報とメディアとの関係、コンピュータやネットワークの原理について扱い、各種メディアの特性を受講者に理解させる。後半では、教育現場における情報化の現状、著作権の現状等も踏まえて、望ましい社会環境・教育環境について考察を加える。	
基礎教育科目	情報処理 コンピュータ基礎演習	演習形態の授業を通して、即実践可能な情報機器の活用法について習得させる。教育現場の中でコンピュータ等の情報機器を有効に用いるために、Microsoft Officeや、フリーソフトといった、追加投資がほぼ不要な環境を用いる。演習の序盤では簡単なビジネス文書の作成方法とインターネットでの調べ方をマスターさせる。次には、実践的な内容として、ペイントソフトの活用、そしてPowerpointを使用した簡単な発表資料の作成に取り組ませる。(遠藤博子/15回)(大野寛/15回)	
基礎教育科目	情報処理 コンピュータ応用演習	演習形態の授業を通して、家計簿や成績表、あるいは統計処理等、幅広い用途で使われる「表計算ソフト」の基本的な使い方を習得させることが目的である。授業の前半では、表計算の概念を中心にとりあげ、簡単な表の作成演習を主に行う。授業の中盤以降からは、端数処理、条件判断、順位、グラフ処理、データベース、文字列処理等の事項を順に演習させ、関数の利用方法を総合的に身につけさせる。	
基礎教育科目	情報処理 インターネット演習	演習形態の授業を通して、Webページを作成するための言語である「HTML」言語による簡単なWebページの作成方法、ならびにWebの仕組みと作成したページの公開方法、電子メールの設定と利用方法について理解させることにより、インターネットにおける情報発信の基礎的スキルを身につけさせることが目的である。授業の前半は、HTMLの基礎を踏まえた簡単なウェブページを作成させる。その後、ページの公開方法、公開する際の注意点、電子メールなどについて演習を行う。	
基礎教育科目	情報処理 表計算応用演習	演習形態の授業を通して、表計算ソフトの基本的な活用法を踏まえた上で、さらに応用的な内容について扱い、最終的には、表計算ソフトを用いた調査研究の統計手法を、実際に簡単な統計対象を設定することで体験的に理解させることが目的である。授業の前半では、とくに統計で用いられる関数や機能を集中的に扱い、受講者に習熟させる。授業の後半では受講者各自が設定した調査を行わせ、実際に統計的処理に基づいたレポートを作成させる。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基礎教育科目	情報処理	マルチメディア演習	演習形態の授業を通して、ロゴやマークの作成やチラシの作成を行い、ペイントソフトによるラスター描画と、ワープロソフト (Word) によるベクタ描画を活かしたDTP (デスクトップパブリッシング) デザインを受講者が行えるようにすることが目的となる。デザインを行う上で必要となる知識を教科書を通して学び、その成果を毎回行う小テストでチェックする。それを踏まえて、実際にコンピュータ上での表現を演習することで、DTPデザインを体験的に学ばせる。	
専門教育科目	子どもの理解	幼児理解の理論と方法	講義形態の授業を通して、乳幼児期の発達や養育・教育のあり方を指導する。最初に、人間が進化の産物としての特徴を持って誕生していることを教え、そのため、発達初期において周りの人間と相互作用することが発達にとって必須の条件となることを教授する。次に、認知機能とパーソナリティの発達の特徴を教え、乳幼児期の発達の全体像を伝えるとともに、乳幼児を取り巻く家庭の状況やメディアとの関わりといった今日の問題についても理解を深められるように教授する。最後に、乳幼児の研究法について指導する。	
専門教育科目	子どもの理解	発達心理学	講義形態の授業を通して、発達の仕組みや各発達段階の特徴について、乳幼児期から青年期に重点を置きながらも、生涯発達の視点に立って基礎的事項を指導する。最初に、人間が生物的・心理的・社会的存在であるという視点から発達を考えることを通して、広い視野から人間という存在について洞察を得られるようにする。次に、発達初期における周囲の人間との相互作用が発達にとって重要なことを教える。知的発達と人格的発達について、ピアジェとエリクソンの理論を通して教授する。最後に、障害児の発達をめぐる問題について指導する。	
専門教育科目	子どもの理解	乳幼児心理学	講義形態の授業を通して、乳幼児の心理的発達の特徴を教授する。また、その知識を基に、どのように幼児教育・保育の場を解釈し、実践につなげていくのかについて指導する。最初に、胎児期から老人期までの心理的発達を基礎理論に基づいて概説し、乳幼児期の意味を教える。次に、乳幼児期の発達の特徴を領域ごとに教える。最後に、幼児教育・保育を通して気になる乳幼児の行動について、事例をもとに指導する。	
専門教育科目	子どもの理解	児童心理学	講義形態の授業を通して、生涯発達の中で児童期が学ぶ時代の始まりであることを位置づけ、社会の変化の中で子どもの発達に影響を受けていることを教授する。最初に、児童期の学びの土台となる認知機能の発達について概説し、知的機能の多様性についても理解を広げられるようにする。次に、児童期の学校生活や家庭生活の中で発達する心理的諸機能について教える。発達を健全に支えるために大人が配慮すべき事項について伝え、最後に、児童期の指導のあり方について心理学的視点から指導する。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目	子どもの理解	小児保健Ⅰ	講義形態の授業を通して、生命の保持と情緒の安定を図る保育における小児の健康の意味を認識させ、保育実践における保健活動・養育環境・養育方法・健康状態の重要性を理解させることを目的とする。具体的には小児保健の意義と目的に始まって、成長・発達の目覚ましい乳幼児期から学童期までの小児の精神身体機能の発達を各期毎にその特性を学ばせ、健康づくり、予防についての知識を出来るだけ最新の情報を提供しながら習得させる。	
専門教育科目	子どもの理解	小児保健Ⅱ	講義形態の授業を通して、小児保健Ⅰに引き続き、子どもたちの心と身体の健康を維持し、増進することを目的とした分野であることを理解させた上で、保育現場において出会うことの多い小児の疾患、事故について応急対処法を含めて講義する。また、小児の問題行動を、成長に沿った期毎に講義し習熟させる。さらに後半では、児童福祉施設や学校における小児保健のあり方、様々な人間関係の重要性を学ばせる。	
専門教育科目	子どもの理解	小児保健実習	実習形態の授業を通して、子どもを対象として働く保育士として理解しておくべき保健上の諸問題とその対応について学ばせる。特に体温の観察に当たっては耳式検温法、電子体温計による検温法など広く実践しながら必要な技術を習得させる。また身体発育測定法や抱き方・おむつ交換などの養護技術を身につけさせ、さらに事故と安全対策についても瞬時に対応できるよう学ばせる。	
専門教育科目	子どもの理解	小児栄養Ⅰ	調理実習を含む演習形態の授業を通して、子どもの栄養と食生活は生涯にわたる健康と生活の基礎であることを理解出来ることを目的とする。小児栄養の基本的理論を体系的に学ぶよう組み立て、演習を通して保育の場に役立つ応用力が身に付くようにする。さらに、保育者として保育との関連のなかで、小児に適切な食事が提供できるように調理実習を行い、保育における食生活が心の健康に影響することを習得させる。	演習 1 3 回 調理実習 1 回 まとめ 1 回
専門教育科目	子どもの理解	小児栄養Ⅱ	調理実習を含む演習形式の授業を通して、小児保健Ⅰに引き続き、子どもの栄養と食生活は生涯にわたる健康と生活の基礎であることを理解させる。また、幼児食においては調理実習を取り入れて、実践的学習を体験させる。さらに、小児の発育期（幼児期～学童・思春期）に応じた望ましい食生活について、発育期の順序で教授し、その重要性について理解し応用できるように指導する。	演習 1 1 回 調理実習 3 回 まとめ 1 回

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目	保育・教育の基礎	保育内容研究Ⅰ	演習形態の授業を通して、幼稚園や保育所での幼児教育・保育実践を多角的に検討させる。意図的・計画的な幼児教育・保育の実施に際して、保育内容の捉え方、教育課程の編成・保育計画や指導計画の組織・配列の仕方により、幼児教育・保育実践時の教育者や保育者・乳幼児の動態にも多大な差異が発現することに気付かせること等で、保育内容研究の手法や重要性を教授する。そのために、わが国の幼児教育・保育内容の歴史の変遷過程、現行の幼稚園教育要領・保育所保育指針、幼児教育・保育の計画作成時の配慮等も教授する。	
専門教育科目	保育・教育の基礎	保育内容研究Ⅱ	演習形態の授業を通して、乳幼児の遊びを中心に、それとの関連で幼児教育・保育の方法原理や教育者・保育者の役割等を検討させる。乳幼児を対象とする幼稚園・保育所の幼児教育・保育内容は小学校以上の学校の教科指導とは異なり、主として、総合的な活動としての遊び活動を中心に構成されており、幼児教育・保育実践時の乳幼児の遊び活動に対する教育者・保育者の指導・援助活動の在り方のもつ意味が非常に重要になるということを学ばせること等で、保育内容研究の手法や重要性を教授する。	
専門教育科目	保育・教育の基礎	保育内容研究（健康Ⅰ）	演習形態の授業を通して、子どもが体を動かす気持ちよさを体験し、自分から体を動かそうとする意欲が育つようにするための幼稚園や保育所での遊びの計画や援助のあり方を検討させる。最初に、子どもの心身や運動能力がどのように発達していくのかを教える。次に、子どもがより多様な体験ができるような遊びができる遊具（教材）の準備、環境設定、保育の展開を教授することで、遊びの立案や環境設定ができるように指導する。	
専門教育科目	保育・教育の基礎	保育内容研究（健康Ⅱ）	演習形態の授業を通して、子どもが和やかな雰囲気の中で一緒に食べる楽しさを味わい、食べ物に興味関心を持つとともに、家庭での生活経験に配慮して、他児とかかわりながら生活に必要な習慣を身につけるための幼稚園・保育所での計画や援助のあり方を検討させる。最初に、生活習慣に関する発達を教える。次に、生活習慣の獲得を促す環境設定、教材、家庭との連携を教授することで、生活習慣の立案や環境設定ができるように指導する。また、子どもの健康・安全管理を教授することで、適切な環境を設定できるように指導する。	
専門教育科目	保育・教育の基礎	保育内容研究（人間関係Ⅰ）	演習形態の授業を通して、子どもが保護者との関係以外に、教育者・保育者・他の子ども・就園する幼稚園や保育所の周辺住民との関係の中で、どのように各年齢の発達課題に直面し次の発達段階へ移行していくかを、事例やビデオ映像を活用して検討させ、指導する。その際、受講者の学びが深まるように、発達の道筋として基本的信頼感、自律、能動性、性的同一視、葛藤、ルール、イメージの共有、共感の獲得等に関して教授する。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目	保育・教育の基礎	保育内容研究（人間関係Ⅱ）	演習形態の授業を通して、乳児期から学童期に至るまでの子どもが人との関わりでどのような発達の道筋を示すか、教育者・保育者がどのように園児に関わっているかを、事例や実際に幼稚園や保育所を訪れ観察することにより検討させる。実際に園を訪問した際には、幼児と教育者・保育者間・幼児間の関わりを記録するレポート課題を出し、添削指導するとともに、グループ討議で理解を深めさせる。また、これまでの学びを活用して指導計画の立案ができるように指導する。	
専門教育科目	保育・教育の基礎	保育内容研究（環境Ⅰ）	演習形態の授業を通して、幼児教育・保育環境をどのように構成していくかを検討させる。最初に、子どもを取り巻く環境（自然・社会・文化）を観察する機会を提供し、その性質や仕組みをプレゼンテーションさせることで、幼児教育・保育への応用の仕方について指導する。次に、幼児教育・保育のための素材選びや遊びを体験する機会を提供し、考察したものを学生間でバズセッションさせることで、教育者・保育者の役割について領域「環境」の視点から教授する。	
専門教育科目	保育・教育の基礎	保育内容研究（環境Ⅱ）	演習形態の授業を通して、保育内容研究（環境Ⅰ）で学んだことを土台に、幼児教育・保育環境をどのように構成していくかを検討させ、季節・地域・年齢・自然環境を考慮した幼児教育・保育の計画への活用方法を教授する。最初に、子どもを取り巻く環境、特に自然環境について、次に、生物以外の物について、最後に、文化としての年中行事を受講者の体験を基により深く教える。そして、幼児教育・保育の環境構成・活動にそれらの素材を適切に取り入れた計画を立案できるように指導する。	
専門教育科目	保育・教育の基礎	保育内容研究（言葉Ⅰ）	演習形態の授業を通して、子どもがことばを獲得するための教育者・保育者の望ましい援助のあり方について検討させる。最初に、子どもが成長する中でどのようにことばを獲得していくのかを教える。次に、「ごっこ遊び」や、絵本、ことば遊び等の子どもと関わりの深い文化財について教授した上で、ことばを育てる環境のひとつとして文化財を活用する指導案を立案・発表する機会を設けることで、文化財を用いた幼児教育・保育の具体的な実践方法を指導する。	
専門教育科目	保育・教育の基礎	保育内容研究（言葉Ⅱ）	演習形態の授業を通して、保育内容研究（言葉Ⅰ）で学んだことを土台に、子どもの成長とことばの獲得との関わりや、発達段階に応じた援助のあり方について、さらに広く、深い視点から検討させる。その際、ことばの力を育てる文化財の活用においては応用的な実践方法を教授する。加えて、教育者・保育者を目指す上での受講者の言語表現を確認する機会も設けることで、ことばに関する意図的な保育以外の場面においても、子どものことばを育むことができるように指導する。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目	保育・教育の基礎	保育内容研究（表現Ⅰ）	演習形態の授業を通して、様々な子どもの表現を体験する機会を提供する中で、受講者の感性や表現力・創造性の向上を図るとともに、幼児教育・保育における子どもへの援助のあり方や指導方法を検討させる。最初に、子どもの年齢に合わせた歌遊び等について教える。次に、素話や歌遊びを創作・発表する課題への指導を行う。最後に、歌や踊りを織り交ぜた子ども向けの自己紹介を発表する課題を出し、内容や表現方法を指導する。	
専門教育科目	保育・教育の基礎	保育内容研究（表現Ⅱ）	演習形態の授業を通して、保育内容研究（表現Ⅰ）で学んだことを土台に、様々な子どもの表現を体験する機会を提供する中で、受講者の感性や表現力・創造性の向上を図るとともに、幼児教育・保育における子どもへの援助のあり方や指導方法をより深く・幅広く検討させる。最初に、子どもの年齢に応じた表現の特徴を確認する。次に、色彩や形も含めた総合的な歌遊びやリズムの表現を創作・発表する課題への指導を行う。最後に、総合的な表現を発表する課題を出し、内容や表現方法を指導する。	
専門教育科目	保育・教育の基礎	乳児保育Ⅰ	演習形態の授業を通して、乳児はその主体性を発達させていくことが重要であり、乳児の主体性の発達には、具体的な時代・場所の中で共に生活する大人との創造的なかわりに大きく依存していることを踏まえ、具体的な保育内容を通して保育の進め方や保育者の役割を理解することを目的とする。ここでいう乳児とは3歳未満児であり、その日課や発達と遊びの関係、環境との関わり、変化の著しい乳児期の食事、排泄など、発達に即した具体的内容を習得させる。	
専門教育科目	保育・教育の基礎	乳児保育Ⅱ	演習形態の授業を通して、乳児保育Ⅰで学んだことを土台にして、より専門的で具体性を持った乳児保育の実際を習熟させることをねらいとする。乳児はそのときどきの世話をする人の感情や気持ちを一緒に体験しているということが理解でき、子どもを取り巻く環境が育ちを支えていることを学ばせる。地域や家庭生活の子育ての実態と保育所の役割を学習させ、広い視野から乳児保育を捉えることが出来るようにする。具体的には保育の方法・形態・記録・指導案の立案など実践に結びつく内容、保護者・職員間の連携のあり方等について具体的に学ばせる。	
専門教育科目	保育・教育の基礎	障害児保育	演習形態の授業を通して、保育現場での障害のある子どもや問題を抱えた子どもの持っているいろいろな障害についての特徴や保育上の留意点等を学ばせることをねらいとする。具体的な事例を通しながら、子どもとのかかわり方・連携の方法・家庭との協力等を理解し、それらが現場で活かせる知識となるように演習を進める。最近特に話題になっている発達障害については、国の施策とともに指導法など最新の情報を提供し、現場で役立つよう指導する。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目	保育・教育の基礎 養護原理Ⅰ	講義形態の授業を通して、何らかの事情によって家庭で育てられない児童への社会全体の養育責任としての社会的養護を理解させることをねらいとする。具体的には、養護問題の史的展開、今日の特徴、問題発生 of 構造的な理解、社会的養護の必要性やその制度的体系を前半の授業で学び、中盤は日本の社会的養護の中心を担う児童福祉施設の役割と養護の実際、施設の持つ機能と特質、養護の基本原則等を教授する。後半は、家庭型養護としての里親制度を取り上げる。授業全体を通して、現代社会が抱える児童を取り巻く問題の深刻さと、社会的養護を必要とする子どもたちの成長と安心で安定した生活を支え、自立を支援していく施設保育士の役割を理解させる。	
専門教育科目	保育・教育の基礎 養護原理Ⅱ	講義形態の授業を通して、児童福祉施設ならびに障害者支援施設への理解を深め、養護の多面性を学ぶことをねらいとする科目である。授業では、児童福祉施設ならびに障害者支援施設を施設種別毎に取り上げ、それぞれの施設の目的・設立の歴史的背景・現状・日常生活における基本的な養護内容など多義に亘って詳しく講義し、今日の社会における養護の多面性・重要性に対する理解が深まるよう指導する。授業自体は、養護原理Ⅰを土台とし、さらに具体的に施設養護を深く学んでいくことで社会的養護の本質と、施設保育士の役割について理解できるように教授していく。	
専門教育科目	保育・教育の基礎 養護内容Ⅰ	演習形態の授業を通して、養護原理Ⅰの授業で習得した児童（施設）養護の基礎知識をもとに、児童福祉施設ならびに障害者支援施設の利用者に対する日常生活の援助内容や方法、自立支援のあり方等を学ぶことを目的とする科目である。授業では、実際の生活場面を映像等で見ながら、施設生活の実際と援助の方法を教授していく。また、さまざまな観点から施設養護観について意見を述べあうなどしてより深い養護観を養う。この授業を通して、施設実習に必要な知識と技能を身につけることを目標とする。	
専門教育科目	保育・教育の基礎 養護内容Ⅱ	演習形態の授業を通して、児童福祉施設ならびに障害者支援施設における援助者として必要な知識や技術を習熟することを目的とする科目である。養護内容Ⅰで学んだ児童福祉施設ならびに障害者支援施設の利用者に対する日常生活の援助内容や方法、自立支援のあり方等をさらに掘り下げて学べるよう教授する。特にこの授業では、より実践的な養護内容を学べるよう授業を組み立て、知識・技術が身に付くよう指導する。具体的には、2年次前期の施設実習を振り返りながら、それぞれが実習で体験した場面を取り上げ、養護の実践を考察していくケース・スタディを中心に進めていく。	
専門教育科目	保育・教育の基礎 道徳	講義形態の授業を通して、小学校における道徳教育及び道徳の時間についての理解を一層深めることをねらいとする。教職職員免許法上の教職必修科目である「道徳の指導法」の履修を前提として、成果が上がっていない、規範意識が育っていない、等の反省から教科化を求める声も上がっている道徳教育に関して、学習指導要領改訂の趣旨とこれからの徳育の方向性、指導論の動向、最近の研究成果等について概説するとともに、教材開発技術や指導技術を教授する。授業計画は、「道徳教育の現状と課題」「全体計画・年間計画の現状と課題」「道徳の時間の指導論」「心のノート」「教材開発」「道徳の時間の学習指導案」等を単元として教授する。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専門教育科目	保育・教育の基礎	国語Ⅰ（書写を含む）	<p>保育所保育指針や幼稚園教育要領の「言葉」の領域への理解と小学校国語教育との接続を認識し、国語科の教科専門の力を育てることを目的として、絵本・童話と文学教材、音声言語教材、伝記教材、説明文教材を取り上げ、各教科の特徴を理解し授業を行う上での基礎的な知識を教授する。（オムニバス形式／全15回）</p> <p>① 勝倉壽一／11回）小学校学習指導要領と国語科教育の目標・内容について解説、物語、詩歌、民話、説明文の構造と特徴、教材として扱う目的と留意点、具体的な読解の方法の理解と実践等を単元として教授する。また、音声言語教材の扱い方についても教授する。</p> <p>③ 川越ゆり／2回）保育所・幼稚園における絵本・童話や詩の学習の目的を学ぶとともに、「言葉」領域の学習が小学校国語科教育とどのような連続性を持つか教授する。</p> <p>④ 菅野悦正／2回）小学校国語科教育における書写について教授し、実際に毛筆の書写指導を教授する。</p>	オムニバス方式
専門教育科目	保育・教育の基礎	国語Ⅱ	<p>講義形態の授業を通して、幼稚園及び小学校国語科指導の言語及び日本語の基本的な知識及び技能等を教授するとともに、言葉に対する自覚的な態度を修得させる。授業の計画は、「世界の中の日本語」「音声」「語彙・語彙の類別」「漢語の校正・意味」「文法・文法論」「品詞論」「表現・文体」「文字・標記」「言語生活」「日本語史」等言葉が多面的にとらえるための視点や・技能を単元として教授する。</p>	
専門教育科目	保育・教育の基礎	社会Ⅰ	<p>講義形態の授業を通して、社会科教育の基礎として必要な地理的・歴史的な教材を中心に体験的・作業的な活動をとおして知識・技能を教授する。特に、地理学習では地球儀、鳥瞰図や立体模型図等の面白さ、地図の見方と活用法、地図の作成等を教授する。また、歴史学習では主な人物の働き（学習指導要領に例示されている人物を調べる等）と文化遺産（身近な文化財と世界遺産等）を単元として教授する。</p>	
専門教育科目	保育・教育の基礎	社会Ⅱ	<p>講義形態の授業を通して、社会科教育の基礎として必要な経済的・政治的・国際的な教材を中心に学習指導要領に結びつく知識等を教授する。特に経済学習では農業の稲作づくりに関する事項を4回、工業の自動車生産に関する事項を5回、政治学習では二院政治と三権分立、中央集権と地方分権に関する事項を3回、国際学習では国際連合・平和への願いを2回等を単元として教授する。</p>	
専門教育科目	保育・教育の基礎	算数Ⅰ	<p>講義形態の授業を通して、指導内容を学習指導要領、幼稚園教育要領等と各教科書会社の作成する教科書を資料として、数学的及び社会的な視点で考察し、算数科教育の意義を理解することを教授する。また、子どもに指導するときに、知識・理解に関わる目標を教科書からとらえることができるようになる技術・表現を教授する。授業計画は、「教と計算（4回）」「ドリルについて」「量と測定（3回）」「図形（3回）」「数量関係（2回）」等の単元を教授する。</p>	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目	保育・教育の基礎	算数Ⅱ	講義形態の授業を通して、算数指導において、関心・意欲・態度の目標をどう設定するか。数学的な考え方の目標をどう設定するかを中心として授業を進め、学習指導案を作る前段階の目標分析の手法を教授する。また、算数指導における教材教具の作成、視聴覚教材（コンピュータによる教材作成を含む）の作成及び効果的な提示の仕方、算数教材の作成等について教授する。授業計画は、「関心・意欲・態度の目標設定」「数学の見方・考え方・考え方の指導」「指導目標の設定」「算数科の評価」「コンピュータと算数教育」「教材作成」等を単元として教授する。	
専門教育科目	保育・教育の基礎	理科Ⅰ	講義形態の授業を通して、小学校理科の内容の背景になっている4領域（物理・化学・生物・地学）について、指導に必要な基礎的概念・知識を教授し、自然科学現象に対する理解の深化を図ると共に、指導者としての資質を高める内容を教授する。授業計画は、「小学校理科の内容とその指導」「物理領域の内容と基礎知識」「化学領域の内容と基礎知識」「生物領域の内容と基礎知識」「地学領域の内容と基礎知識」「自然環境と人間生活」等を単元として教授する。	
専門教育科目	保育・教育の基礎	理科Ⅱ	演習形態の授業を通して、小学校理科で扱う学習内容についての観察・実験を通して、実験・観察に必要な基本的知識・技術を教授する。また、観察・実験を安全で効果的に展開できるように準備・実験技術・方法等についても具体例を挙げながら教授する。授業計画は、「実験器具の種類と安全な扱い」「力学演習」「植物に関する事項」「消化器官のつくりと働き」「電気・電流・磁石」「水溶液」「水」「つきと太陽」「天気図の作成」等を単元として教授する。	
専門教育科目	保育・教育の基礎	生活Ⅰ	講義形態の授業を通して、教科「生活」は、入学に伴う園児・児童の生活および環境の変化への馴化と2年間を通して新たな環境へ適応し、旺盛な発育・発達を支え、成長を助長することにある。本講義は「生活」の理念、目標について創設に至る経緯、多くの論議を取り上げることでその本質の理解を深める。さらに、直接体験学習の実習機会を多くし、自らの”気づきやコツ”を知り、「生活」の授業作りの基礎を教授する。特に「幼・保・小連携と生活」「幼児・児童の生活実態と課題」等を前段として小学校教科目の「生活科」を重要な単元として教授する。	
専門教育科目	保育・教育の基礎	生活Ⅱ	講義形態の授業を通して、「生活Ⅰ」を発展させた内容とし、各講義テーマについて実践および関連する文献、情報を収集し、抄読し、抄録を作ることを通して生活科の授業について教授する。学習目標は、児童の成長と生活環境との相互関係を科学的、理論的に見ることができ、身の回りの生活に関わる問題について気づき、洞察できるとし、事業計画は、「幼・保・小連携と生活」「地域と生活（社会の仕組み、自然と生活、産業、環境衛生と公衆衛生、発育・発達）」「小児期の生活（健康、生活時間、栄養と食、発育・発達、遊び、生活習慣）」「地域に生きる」等を単元として教授する。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目	保育・教育の基礎	音楽Ⅰ	演習形態の授業を通して、保育者・教育者に求められる、音楽の基礎力の向上と豊かな音楽感性の育成をねらいとする。授業は1コマを45分ずつの2分割交代制で行う。一方では、MRS (Memory Retean-back System) によるソルフェージュ (読譜・視唱・聴音) により音楽の基礎力と歌唱法の習得、もう一方では、複数教員での個人レッスンによりピアノ奏法の技術を習得させる。	
専門教育科目	保育・教育の基礎	音楽Ⅱ	演習形態の授業を通して、保育者・教育者に求められる、音楽の基礎力の向上と音楽感覚の育成をねらいとする。特に、音楽Ⅱにおいては、歌唱、ピアノ・アンサンブルの音楽表現力を培っていききたい。授業は45分ずつの2分割交代制で行う。一方では、一人の教員によるMRSソルフェージュ (読譜・視唱・聴音) と歌唱法を身につけさせ、もう一方では、PML (Piano Music Laboratory) 室の設備を使って集団で和音を習得させ、合わせて個人のピアノ指導を行う。	
専門教育科目	保育・教育の基礎	音楽Ⅲ	演習形態の授業を通して、ピアノでの弾き歌いや和楽器・簡易楽器などの奏法、鑑賞教材曲などを教授し、保育者・教育者としてより高い音楽力と実践力を身につけられることをねらいとする。授業は45分ずつの2分割交代制で行い、ヴォーカルでは一人の教員が様々な教材を通して音楽の応用と展開を教授し、もう一方では、複数教員による主にピアノ奏法の個人指導を行い、児童に豊かな音楽を提供できるような知識・技術を習得させる。	
専門教育科目	保育・教育の基礎	図画工作Ⅰ	演習形態の授業を通して、子どもの造形活動に伴うさまざまな素材、画材、道具等の基礎知識を実際の制作活動等について教授する。学習目標は、造形活動に関する様々な素材、道具の活用法と実際、造形活動の基礎知識等について展開をする。授業計画は、「色の原理」「水彩絵の具」「土粘土」「オイルパステル」「アクリル絵の具」「版画技法」「立体工作」「紙粘土」「紙工作」等を題材として教授する。	
専門教育科目	保育・教育の基礎	図画工作Ⅱ	演習形態の授業を通して、図画工作Ⅰの内容を深める形で、子どもの造形活動に伴うさまざまな素材、画材、道具等の基礎知識を実際の制作活動を通して教授する。また、創造することを通し、表現の喜びを自らも味わうと共に、教科指導への展開の方策を考える基礎を合わせて教授する。授業計画は、「素材研究」「色彩研究」「陶芸の基礎」「小枝彫刻」「木工作」「紙粘土」「版画技法」「空間アート」等を題材として教授する。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目	保育・教育の基礎	家庭Ⅰ	講義形態の授業を通して、教科「家庭」は発育・発達面で特徴を持つ小・中・高の発達段階に応じ、他教科との関連を密にし、連携を図り、各段階での目標および全体を通した目標の達成を図ることが求められる。本講義は発育・発達面で特徴的な思春前期の児童で始まる教科「家庭」を強く意識し、教科の基礎・基本となる事項を講義課題として取り上げる。具体的には、「家庭科の成り立ち」「健康と生活」「人間の発育・発達と生活」「生活と環境」「生活と福祉」「人間と衣生活」「人間と住生活」「食生活の成り立ち」等を単元として教授する。	
専門教育科目	保育・教育の基礎	家庭Ⅱ	講義形態の授業を通して、「家庭Ⅰ」を発展させた内容とし、特に、新たに学習指導要領で示された「家庭生活と家族」「日常の食事と調理の基礎」「快適な衣服と住まい」「身近な消費生活と環境」の4つの内容を基底に、児童の実践的・体験的な学習活動を通した生活能力と実践的な態度を育む授業のあり方を教授していくための科目である。授業は、「人間と健康と生活」「健康と食物」「子どもの発育・発達」「給食と食育」「環境教育と家庭科」等を単元として、関連する文献、情報を収集・抄読し、抄録を制作したり、教材研究等を取り入れていく中で、学びを深めていく。	
専門教育科目	保育・教育の基礎	体育Ⅰ	演習形態の授業を通して、まずからだを動かすことの「楽しさ」を実感することを目的とし、実技を通して運動することの「楽しさ」を体験する。また、幼児期の子どもにとつての運動遊びとは何か、運動遊びの指導をどのように進めればよいか等、指導実践において必要な知識ならびに技能の基礎を教授する。授業計画は、「遊びの現状」「子どもの体力」「道具を用いない遊び」「道具を用いた遊び」「水遊び」「遊びをつくる」等を単元として教授する。	
専門教育科目	保育・教育の基礎	体育Ⅱ	演習形態の授業を通して、子どもの体育指導にかかわる者として自らが、子どもの年齢、発達状況に応じた運動・遊びを提示できることを目標に、身体の発育発達の特徴と、運動の関係について理解するとともに、安全に対する意識を身に付け、指導技術を教授する。授業計画は、「子どもの発育・発達」「子どもの健康」「遊びの安全な場づくり」「遊びの指導」「運動遊びの指導計画」「運動遊びの指導」等を単元として教授する。	
専門教育科目	保育・教育の基礎	子どもの英語	演習形態の授業を通して、小学校における英語活動のあり方とその実践方法について教授する。授業内では、できるだけ英語の使用を心がけ学生自身の英会話力を高めていくとともに、児童が楽しく英語活動を体験するための方法を教授する。具体的には、児童が興味・関心を示すと思われるトピックを挙げ、音声面を中心とした体験的なコミュニケーション活動の授業方法を学ぶ。また、体験的なコミュニケーション活動を通して外国の言語や文化に触れ、多様なものの見方や考え方に気づけるような授業内容の検討を行う。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目	保育・教育の理解	保育原理Ⅰ	講義形態の授業を通して、保育の意義についての明確な認識を持たせ、その依拠する原因を概説し、保育の原理に理解を深めることをねらいとする。そのためにさまざまな保育思想や保育の類型・歴史などを理解させることから始める。次に保育所における保育の原理を教授し、乳幼児の保育を受ける権利を保証しなければならないことを理解させる。さらに保育所保育指針を基に、保育の目的、保育所の使命、保育者の業務、そして具体的保育内容を発達に沿って教授する。	
専門教育科目	保育・教育の理解	保育原理Ⅱ	講義形態の授業を通して、保育原理Ⅰに引き続き、保育の意義について明確な認識を持たせ、保育者としての自覚を高めることをねらいとする。幼稚園や保育所の意図的計画的な保育活動の実践に不可欠な教育課程の編成・保育課程の作成や指導計画の作成時に必要となる知識や能力を習得させるために、はじめに、わが国における教育・保育の目的や幼稚園・保育所の目的・目標・ねらい・内容について学習させ、つぎに、教育課程・保育課程や指導計画の編成・作成などの保育実践にかかわる方法原理・保育の形態・評価等について学ばせ、さいごに、保育者の養成や研修・研究の必要性について習熟させる。	
専門教育科目	保育・教育の理解	保育指導法総論	講義形態の授業を通して、さまざまな幼児教育の場면을多角的に捉える視点を教授し、その場面の状況に応じて臨機応変に感受し対応できる専門性を深めながら幼児教育力のバリエーションを高められるように指導する。最初に、幼児教育者としての資質の向上を意図し、毎回の授業項目において感受する心の大切さを教授する。次に、保護者対応・環境構成・クラス運営・行事での教育等の幼児教育の場面を取り上げ、個別指導と集団指導の両立や幼児教育の連続性に留意して幼児教育を実践できるように指導する。	
専門教育科目	保育・教育の理解	児童福祉	講義形態の授業を通して、児童福祉の意義にはじまってそのサービス・援助などの理解と専門職としての保育士の役割、相談援助技術等を学ばせることをねらいとする。授業では、児童福祉の理念を理解させ、次に法律や制度の体系について概説する。また、児童福祉の現状把握をさせ、問題の本質と解決の方策を考えさせるため、「児童健全育成」「児童虐待」「ひとり親家庭への支援」「子育て支援」等を取り上げる。さらに、児童福祉施設従事者としての知識・技術を教授し、相談援助活動の重要性を学ばせる。	
専門教育科目	保育・教育の理解	児童文化論	講義形態の授業を通して、さまざまなジャンルの児童文化財について教授し、同時に子どもの世界について論述ができるようになることをねらいとする。具体的には昔話、絵本、児童文学（物語）、映像文化（アニメーション）、子どもの遊び空間などの視点から、具体的な教材を通して、それぞれのジャンルの特徴や、子どもの心のありようと、その子どもとの関わりなどについて教授し、考察を求める。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目	保育・教育の理解	教育原理	講義形態の授業を通して、専門的な教育用語・教育理念等を基に、教育観を確立できるように指導する。最初に、教育される立場から教育する立場への転換期を迎える受講者に、自己やその他の人々がいずれも教育の所産であることを再確認させる。次に、教育の重要性の認識の下、意図的・計画的な教育の担当者に不可欠な教育諸理論・教育目的の歴史の変遷等を教える。最後に、人類の教育全般についても思考を巡らせることができる能力を身につけられるように、環境教育や多文化教育等の実践を教授する。	
専門教育科目	保育・教育の理解	教育課程総論	講義形態の授業を通して、教育課程に関する理解、及びその編成や指導計画の作成に必要な知識と技能を教授する。最初に、小学校及び幼稚園における教育課程にかかわる小学校学習指導要領や幼稚園教育要領の歴史の変遷や構成等の諸事項をとりあげ、小学校や幼稚園での全教育活動は、編成された教育課程を具現化した指導計画に基づき実施・展開されているということを教える。次に、教育課程を編成する際に不可欠な知識や技能を指導する。	
専門教育科目	保育・教育の理解	教育制度論	講義形態の授業を通して、我が国の教育制度の概略を教授する。最初に、公教育の意義から始め、教育基本法を中心とした教育関連法制、同法制に基づく現在の学校・教員・教科書等の制度を教える。次に、現在の教育制度への理解を深められるように、戦前からの教育制度の変遷やその背景を教授する。最後に、我が国の教育制度の特徴や課題を把握するために、諸外国の教育制度を教授し、受講者が比較・考察する課題への指導を行う。	
専門教育科目	保育・教育の理解	教職概論	講義形態の授業を通して、教育者の社会的役割・職務の公共的意義・教育者の倫理・研修などを教授する。最初に、中央教育審議会答申（教員養成部会）や旧教員養成審議会の答申等の趣旨を踏まえつつ、教育者の歴史や教育者論に見られる教育者の条件、教育者の職務内容、教職の専門職性、教育者に求められる資質・能力、研修、各種の教育法規に規定される教育者に関連した事項等について基本的な事項を教える。次に、教職に就くための基本的な心構えを形成できるように指導する。	
専門教育科目	保育・教育の理解	教育心理学	講義形態の授業を通して、教育心理学の諸問題や基礎知識を基に、多様な視点から論理的に思考する能力を獲得できるように指導する。最初に、人間の発達、学習、適応と不適応、教育評価を主に教授する。次に、障害児や集団を含めた子どもの理解とその指導法等を教授する。諸問題や基礎知識への理解を確認し、深められるように、小テストを課すとともに、それらを基に論理的な思考ができるように小レポートを課して指導する。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目	保育・教育の理解	教育の方法と技術	講義形態の授業を通して、受講者一人ひとりに理論と技術に裏付けられた自分なりの教育観・授業観を養成する。最初に、幼稚園教育要領・小学校学習指導要領の目標の分析から公教育の目指す子ども像までを教授する。次に、これまで実践されたさまざまな幼児教育・学習指導理論を説明し、それらが何を狙っていたのか、今の子どもたちに必要な教育法・指導法は何かを検討させる。最後に、子どもをひきつける発問、子どもの考えを助ける板書等の技術を具体的な事例をもとに指導する。	
専門教育科目	保育・教育の理解	国語科教育法	講義形態の授業を通して、小学校国語科の目標と内容について学年ごとの系統を追って理解するとともに、それらの効果的な授業展開の在り方を理論的・実践的に学ぶことをねらいとして授業を展開する。また、授業では国語科教育の大まかな歴史を踏まえ、今日の国語科教育諸課題の認識と、その課題解決に向けた具体的・実践的な方法を検討する。加えて、児童の言語活動の充実を目的とした国語科教育の指導法と連動した「教材開発」と「教材研究」についても検討する。	
専門教育科目	保育・教育の理解	社会科教育法	講義形態の授業を通して、小学校社会科学習に必要な学習目標・内容論、教材論、指導方法論、評価方法論等の1時間また単元の授業を構成できる基礎的力量を養うことを目標とする。授業では、学習単元の教材研究を多面的に行い児童の学びの実態を究めるため、体験的作業的な活動を取り入れながら学習指導案づくりを学ぶ。また、児童が社会科の学習を通して、社会の見方や考え方を身につけ、社会事実や事象の本質を追求できるような指導法のあり方を検討していく。	
専門教育科目	保育・教育の理解	算数科教育法	講義形態の授業を通して、これまでの算数科教育の歩みを概観し、低・中・高学年の算数指導のポイントについて理解を深める。また、それらの学習をもとにして、児童に実際に指導することを想定し、課題をとらえさせる段階の授業プランを作成する。授業では作成した指導案の評価を行うために、学生が指導者と児童になって模擬授業を実施し、望ましい指導のあり方を検討する。これらの活動を通して、授業の構成能力を高めることをねらいとする科目である。	
専門教育科目	保育・教育の理解	理科教育法	講義形態の授業を通して、小学校理科の目標や内容、指導方法について理解するための科目である。授業では、「物質・エネルギー」「生命・地球」をテーマに、各学年での取り上げ方を検討し、指導案を作成する。また、小学校理科では実験場面が出てくるため、安全な観察・実験のさせ方と理科薬品の安全な扱い方についても教授する。加えて、科学を学ぶことの意義や有用性の実感および科学への関心を高める観点から日常生活や社会との関連についても検討する。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目	保育・教育の理解	生活科教育法	講義形態の授業を通して、小学校「生活」の授業をどのように創造、展開、実践して行くかを学ぶための科目である。授業内容は、学校現場で実践されているカリキュラムを例に指導案を数多く抄読し、課題の設定、指導法、教材のあり方などを分析・検討していく。その上で、自らの指導案の作成にあたり、教育法への理解を深めていく。授業の中心は講義であるが、模擬授業も取り入れ効果的に授業を進め生活科の教育法を検討をしていくための科目である。	
専門教育科目	保育・教育の理解	音楽科教育法	講義形態の授業を通して、小学校音楽を指導する上で必要となる音楽教育の目的を概説し、音楽指導の内容等に関する知識・技術について理解できることをねらいとする。はじめに学年毎の授業内容を概観し、各学年の学習指導要領に基づき、音楽教育のねらいと内容を教授する。その内容は歌唱・器楽奏・鑑賞などの分野で、日本音楽を含んで教授する。また、指導方法、教材の展開等に関する理解を深めさせ、指導案作成を行わせる。	
専門教育科目	保育・教育の理解	図画工作科教育法	講義形態の授業を通して、小学校図画工作科の指導にあたって必要となる基礎的な知識を習得するとともに、授業づくりの実践的スキルを身に付けるための科目である。授業では、子どもの発達と造形活動の意味を理解し、学習指導要領で示されている図画工作科の目標や内容を理解した上で、学習指導計画案の作成方法を学ぶ。また、児童が、制作活動を通して創造すること、表現することの喜びを味わいながら学ぶことができるよう授業で扱う各種の教材を研究する等、教科指導の工夫を検討していく。	
専門教育科目	保育・教育の理解	家庭科教育法	講義形態の授業を通して、小学校「家庭科」の授業をどのように創造、展開、実践して行くかを学ぶ科目である。授業では、学校現場で実践されているカリキュラム、授業案を数多く抄読し、子どもたちの実生活と家庭科の視点の結びつきを検討する。指導案の作成では、「家庭生活と家族について」「日常の食事と調理の基礎について」「身近な消費生活と環境について」など、今日「家庭科」に求められる内容を題材として取り上げる。	
専門教育科目	保育・教育の理解	体育科教育法	講義形態の授業を通して、体育教育の特質と目標、小学校体育の学習指導要領の変遷、小学校体育の内容と指導（体づくり運動、器械・器具を使つての運動遊び、器械運動、走・跳の運動遊び、走・跳の運動、陸上運動、水遊び、浮く・泳ぐ運動、水泳、ゲーム、ボール運動、表現リズム遊び、表現運動、保健）、教材及び学習指導案の作成と留意点、体育科の評価の視点と方法、体育教育の課題と現状について学び、小学校体育における指導のポイントを習得させる。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目	保育・教育の理解	道徳の指導法	講義形態の授業を通して、小学校における道徳教育・道徳指導のあり方について教授する。道徳は教育職員免許法上、小学校教諭普通免許状取得のためには必修であるので、「小学校学習指導要領第1章 第1の2」および「同第3章」に規定されている道徳教育の目標や内容等について概説するとともに、その背後に存在する人間観や道徳教育観について歴史的な考察を行うとともに、「道徳の時間」の指導の実際を取り扱う。	
専門教育科目	保育・教育の理解	特別活動の指導法	講義形態の授業を通して、学校全体・学年・学級などにおける集団活動によって、児童の心身の調和的発達と個性の伸張を図り、集団の一員としてよりよい生活や人間関係を築こうとする自主的・実践的な態度等を育てることを目指す特別活動についての理論と実践について適切に理解し、それに基づく指導計画・指導案を立案することのできる能力の育成を目指すための科目である。授業では、教科外活動である特別活動の人間形成的意義、歴史、教育課程における位置や役割、活動の種別毎の目的と内容等について具体的に考察するとともに、各種の指導計画・指導案を作成することを通して、実践的指導力を持った教員を養成する。	
専門教育科目	保育・教育の理解	英語科教育法	講義形態の授業を通して、新学習指導要領で新設された「外国語活動」にあたる「英語活動」の在り方について学ぶ科目である。授業では、児童の英語のスキル向上を目的とせず、体験的なコミュニケーション活動を通して、日本や外国の言語・文化について理解を深めるための授業のあり方や教育法を学ぶものとする。授業の目標は、児童の知識、技能、国際的な視野をバランスよく伸ばす「英語活動」を教室のなかで展開するための実践的なノウハウを習得することにある。	
専門教育科目	保育・教育の理解	生徒指導論	講義形態の授業を通して、小学校における進路指導や生徒指導、及び相談活動で対象となる問題について概説し、これらの問題に対して、教員やスクールカウンセラーがどのように対処しうるのか教授する。授業では、事例を通してより実際的に学べるようにする。その他、相談活動が円滑に機能するためにはどのような点に留意することが必要なのか、さらに予防も含めて機能的な学校システムとはどのようなものか等について検討していく。	
専門発展科目	人間と心理学の理解	総合演習	演習形態の授業を通して、保育に関する自発的、科目横断的な学習能力の習得の中で、保育に関する現代的課題について分析・検討を行わせ、その課題を解決する過程と方法を学習させることをねらいとする。学生は個々に取り組む課題を決定し、研究を進め、定期的にテーマごとのディスカッションやディベート、プレゼンテーションあるいは実地見学や調査を行い、研究発表の土台を構築できるように指導する。教授法はチームティーチング方式をとる。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門発展科目	人間と心理学の理解	心理学A	講義形態の授業を通して、心理学の方法や、心の働きの知的な側面、脳の構造と機能等について理解し、説明できる力を養うことが目的である。まず、心理学という学問を成り立たせている考え方や方法について講述した後、基本的な心の働きのうち知覚、学習、認知、知能といった知的な側面を中心に、基本的事項について説明する。最後に、心の働きを作りだしている脳の構造と機能及び脳の発達について講述し、人間の心の働きが生物としての適応を担っていることを理解させる。	
専門発展科目	人間と心理学の理解	心理学B	講義形態の授業を通して、基本的な心の働きのうち情意的な側面（感情・情動、動機づけ、パーソナリティ）や対人関係、進化心理学的な視点等について理解し、説明できる力を養うことが目的である。特にパーソナリティや対人関係の学習では、具体的・実際的な理解を目指す。心の働きが進化の産物であるという視点や性差について学習することを通して、人間の心の働きが生物としての適応を担っていることを理解させる。	
専門発展科目	人間と心理学の理解	知覚心理学	講義形態の授業を通して、心理学の重要な基礎分野のひとつである知覚心理学についての理解を深め、知覚と、認知・記憶等基礎心理学における他の分野との関係についても説明できる力を養うことを目指す。知覚は、人が環境から何をどのように取り入れるのかという、いわば「心の入口」について考える、心理学の出発点に位置づけられる分野である。感覚の仕組みや一般的特性、形・色・奥行きなどの知覚、そして知覚の社会的影響や発達の様相等、基礎的概念について正しい知識を持たせる。	
専門発展科目	人間と心理学の理解	学習心理学	講義形態の授業を通して、心理学に用いられている学習に関する基本的用語の意味を正確に理解し、またそれらの用語を駆使して学習のさまざまな形成を説明できるように指導する。最初に、ヒトを含めた動物にとっての学習のメカニズムを行動科学及び認知心理学の立場から解明してきた心理学の歴史を、主要な学習理論や重要な心理実験を紹介しながら説明する。次に、学習心理学で盛んに議論されている様々な心理的現象を解説し、それに対応する心理学用語を的確に使いこなすことができるように教授する。	
専門発展科目	人間と心理学の理解	社会心理学	講義形態の授業を通して、社会心理学は社会的行動を扱う学際的な学問であるが、本講義では心理学的社会心理学を取り上げる。現代の社会心理学がどのような学問であるのか、その考え方の特徴はどこにあるのかを、いくつかのテーマやトピックスをとおして理解させることがこの講義のねらいである。最初に社会心理学の歴史、課題、方法についてふれてから、代表的な研究トピックスを解説する。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門 発展科目	人間と心理学の理解	心理統計学	講義形態の授業を通して、心理学を学ぶものにとって分散分析や因子分析などに代表される多変量解析の手法を理解することはとても重要である。そのような多くの変数を対象に行う様々な統計的手法をR言語を使用しながら理解させることがこの科目の目的である。そのためにR言語を各受講者がアクセスできるPCに各自インストールし、そしてそのプログラムを使いこなしながら、平均や分散といった基本的なデータ処理から徐々にさらに高度な統計の概念の理解を深めていく。	
専門 発展科目	人間と心理学の理解	心理学実験演習 A	演習形態の授業を通して、自分以外の人の言動を証拠として、客観的に論じようとするのが現代の心理学である。心理学における感覚・知覚・記憶のテーマについて簡単な実験を体験することで心理学の基本的手法を習得させることをねらいとする。授業は、(1) 問題、(2) 実験、(3) 結果と考察の3段階を基本単位とする。数名でグループを形成し、互いに実験をする側（実験者）と実験を受ける側（被験者）に分かれて実施する。	
専門 発展科目	人間と心理学の理解	心理学実験演習 B	演習形態の授業を通して、自分以外の人の言動を証拠として、客観的に論じようとするのが現代の心理学である。心理学の社会・人格のテーマについて簡単な実験を体験することで心理学の基本的手法を習得させることをねらいとする。授業は、(1) 問題、(2) 実験、(3) 結果と考察の3段階を基本単位とする。数名でグループを形成し、互いに実験をする側（実験者）と実験を受ける側（被験者）に分かれて実施する。	
専門 発展科目	人間と心理学の理解	心理検査法	講義形態の授業を通して、どのような心理検査があるか、どのような目的でどう使用するかを紹介し、また、相手との信頼関係が大切であることや、使い方によっては相手に侵襲的に働く危険性のあることや、心理検査の結果の扱い方に慎重を要する理由などについても学ばせることが目的である。性格検査法、発達検査法、知能検査法、言語検査法、社会生活能力検査法、学習能力検査法をはじめ、精神的健康、認知・記憶、職業適性、親子関係等に関する検査法を取りあげる。	
専門 発展科目	人間と心理学の理解	心理検査法実習	実習を通して、性格検査、発達検査、知能検査のいくつかについて、実習を通して使いこなせる力を養うことを目的とする。即ち、なんのためにその心理検査を行うかを明確に理解するとともに、定められた課題や刺激の提示を誤りなく行うことができ、反応結果についてその検査法の求めるスコアリングや解釈ができるようになり、その検査法の目的に応じた臨床像を描けるようになることである。この授業では、同一検査法について実際に複数回施行する機会を持つとともに、いくつかの検査事例を提示し皆で検討することにより、検査結果を読めるようにする。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門発展科目	子育て支援	臨床心理学	講義形態の授業を通して、臨床心理学と他の心理学との違いを理解し、実際学生自身が検査などのさまざまな体験を通して個人個人の内的なイメージが違うことを学習し、臨床心理学を理解させることをねらいとする。はじめに臨床心理学の成立経緯を概説し、次に、自律訓練法や表現療法、認知行動療法などについて時に事例を交えて紹介する。さらにロールプレイを取り入れ、体験から臨床心理学を理解させる。	
専門発展科目	子育て支援	子育て支援論	講義形態の授業を通して、現代社会で求められている子育て支援について多角的、多面的にその必要性を理解できることをねらいとする。具体的には、今日生じている子育ての問題は何か、どのような子育て支援が行われているか、どのようなことを子育て支援を行うために学ぶ必要があるか、保育園や幼稚園の子育て支援における役割などについて考えさせるとともに、事例検討を通してより深い子育て支援観に導く。	
専門発展科目	子育て支援	子育て支援実践	演習形態の授業を通して、現代社会において、子育て上にとどのような問題があり、どのような視点からどのように子育て支援が行われているのか、さらには、今後の課題は何か等を理解させた上で、高い知識やスキルが身に付くことをねらいとする。具体的には、関係者から直接話を聞かせる、現場を見学させる、カウンセリングを体験させるなど、出来るだけ多く現場に関わる内容を取り入れていく。	
専門発展科目	子育て支援	教育相談	講義形態の授業を通して、教育相談に関する必要な知識・理論及び方法を指導する。子どもの学校生活における対人関係や学習、生活、進路の相談等、子どもや保護者からの相談に応じられるように、相談に関する知識や理論を教授する。次に、子どもや保護者の訴えや心理的なサインを的確に理解し、問題を明確化し、子どもや保護者と共に問題解決の方向を探る関係をつくっていく能力を獲得できるように、ロールプレイ等を用いてカウンセリングの知識・理論・技能を指導する。	
専門発展科目	子育て支援	育児文化論	講義形態の授業を通して、絵本、読み聞かせやストーリーテリング、ブックスタート、子ども向けテレビ番組、食、世界の子育て支援環境比較などの多様な視点から、育児文化についての理解を深めることをねらいとする。特に、ブックスタート運動と関連が深い親子のコミュニケーションの手段としての絵本のあり方、読み聞かせ方、ストーリーテリングの育児における役割関連を深く教授する。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門発展科目	子育て支援	家族心理学	講義形態の授業を通して、さまざまな家族関係における心理的、社会的な知見を教授し、講義ではあるが一部演習的に体験学習を行い、家族のあり方を心理学の分野から学習させることをねらいとする。具体的には夫婦、親子、きょうだい、祖父母など家族関係に関する事、また家庭内暴力やドメスティック・バイオレンス、児童虐待、老人虐待などについても触れる。さらに、家族アセスメントや家族療法について演習を行いながら、体験的に学習させる。	
専門発展科目	子育て支援	家族援助論	講義形態の授業を通して、家族の機能・役割や家族支援の現状と課題について理解させ、子育て支援の専門職として実践できることをねらいとする。そのために、現代の家族のあり方や人間関係、子育てをめぐる問題点や制度・施策などを理解させ、子育て支援には欠かせない相談・助言業務の理解をはかる。さらに、児童福祉の基礎となる家族の福祉を図るために必要な援助活動や関係機関との連携などを理解させる。	
専門発展科目	子育て支援	精神保健	講義形態の授業を通して、保育の対象となる小児の心の健康に関して、その実態や対処のあり方などについてさまざまな観点から理解を深めさせ、保育者は精神の健全な発達にかかわる重要な位置にあることを認識させることをねらいとする。そのために発達段階（乳・幼児期、学童期、青年期）における精神保健を理解した上で、家族や職場、地域における社会精神病理も学ばせる。	
専門発展科目	子育て支援	社会福祉	講義形態の授業を通して、現代社会における社会福祉の意義、理念について理解することを求め、保育者として必要な知識を習得させ、福祉関連科目の基礎にあたる科目であることを認識させる。そのために、授業を「意義」「理念」「歴史」「法体系や制度」「専門性としての役割」「関連領域及び動向」の6つにカテゴリー化して、この科目が福祉関連科目の基礎として位置づけられ、展開していくことを習熟させる。	
専門発展科目	子育て支援	社会福祉援助技術 I	演習形態の授業を通して、社会福祉援助技術の概要と歴史を理解させた上で、社会福祉専門職としての保育士に必要な各援助技術について習得させることをねらいとする。はじめに、直接援助技術や間接援助技術の概要を理解させ、次に、介護技術の実践演習を通して、保育の現場で対応できるようになる程度の技術を身につけさせる。最後に社会福祉援助の場面での記録の重要性を説き、具体的な方法を習得させる。	講義 1 2 回 演習 3 回

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門 発展科目	子育て 支援	社会福祉援助技術Ⅱ	演習形態の授業を通して、ソーシャルワーカーとしての保育士が身につけなければならない対人援助サービスの実際について、演習を通して把握させるとともに、権利主体としての社会福祉利用者への援助の視点について考える力を身につけさせる。具体的にはケースワーク・グループワーク・コミュニティワーク、さらにケアマネジメントなどを概説した上で保育士として活用する機会の多い個別及び集団援助技術を事例を用いながら学ばせる。	講義12回 演習3回
専門 発展科目	地域社会の 理解	地域社会論	講義形態の授業を通して、わが国の高度経済成長は、都市と農村を問わず地域社会を激変させたことを踏まえ、高度経済成長は、地域をどのように変えたか、地域はどのように対応し地域社会を維持してきたのか、21世紀の新たな社会システムとは何か、を講述する。地域社会の構成要素、人口動態と地域社会、人口の過疎・過密問題を整理しながら、脱温暖化へ向けて、低炭素型地域社会の形成の意義と方向性を示す。	
専門 発展科目	地域社会の 理解	地域作りとその手法	演習形態の授業を通して、格差問題が国家的規模で論じられ、かつ社会問題化している現状を踏まえ、受講者に過疎化が進む中山間地域、とりわけ山村の実態を学習させながら、山村住民が取り組む「地域づくり」の手法について理解をさせることを本授業の目的とする。1960年頃から本格化したエネルギー革命によって、薪(まき)や木炭の利用から石油の利用に大きく転換したことにより、それまでの山村の生活はまさに一変した。「過疎むらの変遷」「こだわりの地域づくり」「地域づくりの手法」「地域づくりと人づくり」という小テーマのもと、現在の地域づくりの実例についての理解を深める。	
専門 発展科目	地域社会の 理解	青少年問題と社会教育	講義形態の授業を通して、学校を通過する価値が不当なほどに膨らんで、生活のさまざまな領域に浸透した結果、人の評価もそうした視点から行われるようになった社会を学校化社会と言うが、現代日本社会は、まさにその学校化社会であると言える。このような社会の中で生じている教育病理(校内暴力、家庭内暴力、不登校、いじめなど)を具体的事例と共に取り上げ、それらの問題が何故起こるのか、それらを克服するにはどうすればよいかについて考察させることを目的とする。	
専門 発展科目	地域社会の 理解	生涯学習概論	講義形態の授業を通して、人の学習は生まれてから死ぬまでの生涯にわたって行われるものであり、そうした学習が適切に行われることにより、人は人間らしく生きていかれること、即ち生涯学習の理念と本質について理解し説明できる力を養う。社会教育の本質についての理解を図ると共に、関連する事業や活動実践を多様に紹介する。さらに、指導者側として、どのような働きかけや配慮が必要となるかについて理解させる。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門発展科目	地域社会の理解	地域社会とボランティア	講義形態の授業を通して、地域社会とボランティアの成り立ちと、両者の関係について講述し、現代社会における両者の意義を理解し、考えられる力を養うこと、地域社会と自発的に関わる際の基礎的な知識・素養を身につけることを目指す。講義の前半では、ボランティアと地域社会の概要（原点と歴史、その類型など）を説明し、基本的な知識を固める。これをもとに、講義の後半では、具体的な事例をとりあげながら地域社会とボランティアの関係について理解を深める。	
専門発展科目	地域社会の理解	ボランティア活動	演習形態の授業を通して、県内のNPO／ボランティア活動に参加し、ボランティア活動の実態、意義、社会的役割を体験的に学ぶことを目標とする。また、実体験をもとに活動の意義、課題を考えることで、ボランティアについてのより深い理解を得ることを目指す。ボランティア活動に関する基本的な知識や態度、県内のボランティア団体の活動状況の概要について説明した後、受講者に合計で1日半以上のボランティア活動への参加・体験をさせる。終了後、体験をもとに考えたことをレポートにまとめ、成果をお互いに報告しあう。	
専門発展科目	地域社会の理解	地域社会史	講義形態の授業を通して、地域社会の歴史と文化はどのようにして形成されてきたのか、また、今後どう形成されるべきなのかを学ばせることを目的とする。その場合、政治史や経済史的視点において分析および展望することも可能であるが、本授業は特に民衆史や民俗史的視点で地域社会を考察することが眼目である。したがって、授業は地域が有する「地名」を手がかりとして、そこに垣間見える歴史・民俗・考古などの人文的営みを基軸にして、主として庶民が地域社会の歩みとどうかかわってきたかを理解できるように進める。	
専門発展科目	地域社会の理解	地域文化論	講義形態の授業を通して、地域文化の多様な姿をとらえ、地域と文化のかかわりが持つ意味を理解させることを目的とする。食文化（伝統食と地域風土・地域史）、住まいの文化（民家から共同住宅まで）、イベント的文化（地域の祭）、アートによる地域づくり（映画参加と市民参加の地域づくり）等、それぞれの具体的な事例を考察の対象としてとりあげながら、地域文化への多角的な視点を養い、また、自己と関わりの深い地域が持つ文化について振り返る姿勢を身につけさせる。	
専門発展科目	地域社会の理解	地域と多文化	講義形態の授業を通して、近現代の日本と東アジアの交渉史を踏まえたうえで、地域社会の多言語文化状況についての知識と理解を深めることを目的とする。異文化交流とは、非日常的な体験のみを指すのではなく、むしろ、我々が参加している地域社会に現にある多様な文化に気がつくことこそ、最も大事な異文化の体験になり得る。日本語学、日本文化研究それぞれの領域にある異文化交渉の実例を採りあげて概説し、また、授業のまとめとして、身近な異文化交流の具体相を体験的に理解させる。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門 発展科目	保育・ 教育の 実践	保育実習事前事後指導A	講義形態の授業を通して、実習に必要な知識を教授するための科目で、本講義は、保育実習に臨むための事前事後指導科目に位置づけられている。事前指導にあたる部分では、保育実習のねらいと目的、課題を理解させ、実習に臨むために必要な力を身につける。また、実習生としての心構えやマナーなどの基本を併せて指導する。実習後に行う事後指導については、各自が実習を振り返り反省し、実習報告会での発表を通して、新たな課題を見つける。	
専門 発展科目	保育・ 教育の 実践	保育実習事前事後指導B	講義形態の授業を通して、実習に必要な知識を教授するための科目で、本講義は、2回目の保育実習に臨むための事前事後指導科目に位置づけられている。事前指導にあたる部分では、保育実習のねらいと目的、課題を理解させるとともに、特に、責任実習における指導案の作成方法を重点的に指導し、実践につながる力を養うことをねらいとする。また、実習後に行う事後指導については、各自が実習を振り返り反省し、実習報告会での発表を通して、新たな課題を見つける。	
専門 発展科目	保育・ 教育の 実践	保育実習 I A	実習を通して、実際の保育所生活に参加させ、保育所の役割や機能、保育士の職務、乳幼児の実態について観察させ理解を深め、応用力を身につけることを目的とする。具体的には、保育所において、10日間、見学・観察・参加実習を実践する中で、これまでに各授業を通して学んだ保育の知識や技術を基礎として、これらを総合的に実践する応用力を養い、かつ乳幼児に対する理解を深めることができるよう現場の指導者との連携を図りながら指導する。	
専門 発展科目	保育・ 教育の 実践	保育実習 I B	実習を通して、居住型の児童福祉施設および国で定めたその他の社会福祉施設等の生活に参加し、施設利用者の理解を深めるとともに、居住型児童福祉施設等の機能とそこでの保育士の職務について学ばせることを目的とする。具体的には、10日間、見学・観察・参加実習を行うなかで、援助計画の重要性や職員間の役割分担とチームワーク、職業倫理等が理解でき、援助などの一部を担当しながら養護技術を習得できるよう現場の指導者との連携を図りながら指導する。	
専門 発展科目	保育・ 教育の 実践	保育実習 II A	実習を通して、保育実習 I Aでの実習と、その後の大学の授業で学んだ知識や技術を総合化し、各自が作成した指導案に基づき保育を実践しながら、保育士として必要な資質・能力・技術を習得することを目的とする。具体的には、保育所での10日間の見学・観察・参加・責任（部分・全日）実習を通して、実践の中から乳幼児の理解を深め、各年齢の成長に応じた指導案を作成し、それに基づき保育の実践を繰り返すことにより養護と教育による保育の実際を習熟させる。	保育実習 II B（施設）とどちらか選択

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門 発展科目	保育・ 教育の 実践	保育実習ⅡB	実習を通して、通園型の児童福祉施設および国で定めたその他の社会福祉施設等の生活に参加し、施設利用者の理解を深めるとともに、通園型児童福祉施設等の機能とそこでの保育士の職務について学ばせることを目的とする。具体的には、10日間、見学・観察・参加・責任実習を行い、施設利用児・者の養護全般に参加し、養護技術の習得や自立支援のあり方を体験させる。また、入所型施設とは異なる施設の役割と機能、その中での保育士の職務について学ぶ。	保育実習ⅡA（保育所）どちらか選択
専門 発展科目	保育・ 教育の 実践	教育実習事前事後指導A	演習形態の授業を通して、教育実習Ⅰの事前事後指導を行う。実習の事前指導（11回）においては、実習のねらいと目的、課題を説明するとともに、実習生としての心構えやマナーなどの基本を教える。また、自己紹介や遊びの模擬実践等を行う機会を提供し、実習に臨むために必要な資質を身につけ、適切に準備できるように指導する。事後指導（4回）においては、受講者が実習を振り返る機会を提供し、成果と今後の学習課題を明確にできるように指導する。	
専門 発展科目	保育・ 教育の 実践	教育実習事前事後指導B	小学校で行う教育実習に臨むための事前事後指導科目である。この科目を通して、実習のねらいと目的、課題を理解するとともに、指導案作成の方法や学級運営の方法、学校組織の理解、教科外指導のあり方等、実習に臨むために必要な力を身につける。また、実習生としての心構えやマナーなどの基本を学ぶ。実習後には、各自が実習を振り返り反省し、実習校の指導教諭を招いた実習報告会で報告発表を行い、実習の結果を踏まえた教材研究並びに指導案の再検討、教諭となるための今後の課題等を明らかにする。	
専門 発展科目	保育・ 教育の 実践	教育実習Ⅰ	本学付属幼稚園において10日間同じクラスに配属し、実習を行わせることを通して、観察記録と考察、及び自己紹介や指導案の立案と実践の指導を行う。最初に、子どもの様子や教育者の援助を観察し、考察する機会を提供することで、子どもや幼児教育の実際を知り、子どもへの興味・関心を深められるように指導する。次に、自己紹介や教育活動への参加、遊びの部分案を立案・実践する機会を提供することで、実践的技能を高められるように指導する。	
専門 発展科目	保育・ 教育の 実践	教育実習Ⅱ	本学校法人外の幼稚園において10日間の実習を行わせることを通して、受講生がこれまで学んだ幼児教育の知識と技術、実習の学びを結集し、指導案を基に配属クラスの担任教育者として行う実践を指導する。最初に、子どもの様子や教育者の援助を観察し、考察する機会を提供することで、実習園の子どもや教育方針を把握できるように指導する。次に、観察・記録を基に教育活動への参加、指導案を立案・実践する機会を提供することで、実践的技能を高め、担任教育者として幼児教育にあたることができるように指導する。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門 発展科目	保育・ 教育の 実践	教育実習A	教育実習Aは小学校で行う90時間の実習である。実習の主な内容は1) 授業参観、2) 授業実習、3) 研究授業、4) 教材および指導法の研究、5) 学級経営、6) 放課後の研究指導、7) 特別活動への参加・指導、8) 行事等教育活動への参加である。実習中には、教育実習担当教員が実習校を巡回し、担当の指導教諭との打合せを経て、指導を行う。評価は、実習校からの評価と教育実習担当教員・学科教員による実習録の評価および実習報告会を合算した総合評価で行う。	教育実習B(小学校)とどちらか選択
専門 発展科目	保育・ 教育の 実践	教育実習B	教育実習Bは小学校で行う180時間の実習である。実習の主な内容は1) 授業参観、2) 授業実習、3) 研究授業、4) 教材および指導法の研究、5) 学級経営、6) 放課後の研究指導、7) 特別活動への参加・指導、8) 行事等教育活動への参加であるが、教育実習Aよりも授業参観、授業実習、研究授業の機会を多く設け、より深く小学校教育を学べる実習とする。実習中には、教育実習担当教員が実習校を巡回し、担当の指導教諭との打合せを経て、指導を行う。評価は、実習校からの評価と教育実習担当教員・学科教員による実習録の評価および実習報告会を合算した総合評価で行う。	教育実習A(小学校)とどちらか選択
専門 発展科目	保育・ 教育の 実践	教職実践演習(幼稚園)	演習形態の授業を通して、これまでの学びを振り返り、深められるように指導する。最初に、これまで学んだ幼児の発達や心理、幼児教育の理論や技能、教育実習等の体験で得た学びを確認する。次に、現職の幼稚園園長と元小学校校長である担当教員が、園長・校長の立場・観点から留意点等を指導した上で、グループ討論や遊び・生活場面のロールプレイ等を行う機会を提供することで、多様な視点から自らの幼児教育観や幼児教育実践を深められるように指導する。	
専門 発展科目	保育・ 教育の 実践	教職実践演習(小学校)	演習形態の授業を通して、学生個々の不足している知識や技能等を補うことと、これまでに学んだ教育の理論や技術、教育実習などの体験で得た学びをもう一度振り返り、さらに現場教諭を交えながら、ときにグループ討論やロールプレイなどを行いながら、小学校教育についての学びを深めていくことをねらいとして授業を展開する。この授業の内容は、科目の担当教員とその他の教科に関する科目及び教職に関する科目の担当教員で協議し、その時々が必要と思われる内容をテーマとしていく。	
専門 発展科目	保育・ 教育の 研究	指導案研究A	講義形態の授業を通して、幼稚園・保育所における指導案作成のあり方と方法を教授する科目である。授業では、「どのようなねらいで」「どのような活動を」「どのような場所で」「どのような教材を使って」「どのような流れで」保育を行うのかを検討しながら、指導案の基本的な書き方を学んでいく。また、指導案を作成する際には、遊びを実際に体験しながら作成していき、実践を踏まえた指導案作成のポイントを学んでいく。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門 発展科目	保育・ 教育の 研究	指導案研究B	講義形態の授業を通して、他の授業でも学んでいる幼児の発達段階や指導案の書式を確認した上で、教育実習において適切な指導案を作成することができるようになることが本授業の最大のねらいである。また、このねらいを達成するために行う演習では、自ら教諭役となり指導案を実践してみることに加えて、他の学生の指導案を幼児役で体験することを通して、自らの指導案を向上する視点や遊びのレポトリーを広げることもねらいとしている。	
専門 発展科目	保育・ 教育の 研究	指導案研究C	演習形態の授業を通して、小学校での教育実習ための学習指導要領を基にした指導案の書き方を学ぶ科目である。授業では、まず基本的な指導案のあり方と書き方を教授する。その後、実際に指導案を作成させ、何度か添削をいれる。次に、仕上がった指導案を基に、模擬授業を行わせる。その結果を学生相互に評価させ、課題を検討させる。この流れを何度か繰り返していきながら、現場でも通用する指導案に修正させていき、完成させる。	
専門 発展科目	保育・ 教育の 研究	乳幼児研究法	講義形態の授業を通して、乳幼児のさまざまな特徴を把握するために用いられる研究法を理解させ、研究を計画、実行、まとめることができる方法を学習させることを目的とする。具体的には、乳幼児の特徴を把握するために開発された実験法、観察法などのさまざまな研究法を教授し、さらに、実際の研究の進め方とまとめ方について学習させる。そのために、実際の研究事例も参照しながら、授業を進める。	
専門 発展科目	保育・ 教育の 研究	幼小連携総論	幼稚園と小学校の円滑な接続教育について、それぞれの立場を理解するために、幼児教育教員の立場・小学校教員の立場、さらには両者の現場実態を踏まえた研究者の立場という3つの立場から教授する。さらに、これからの幼小連携のあり方について実践的に論じられることをねらいとする。授業内容としては、特に言葉を通じた国語教育や・接続教育が具現化された生活科の紹介を通して、これからの幼小連携の在り方を見据えたあるべき姿を教授する。(オムニバス形式/全15回) (②菊地とく/6回) 小学校教員からみた幼小連携の実態と課題を論じ、言葉と国語の関係において連携を教授する。さらに最初と最後の授業において授業全体をコーディネートする。 (⑤栗野桂子/5回) 幼稚園現場からみた幼小連携を教授し、また実践例を挙げながら具体的方法を教授する。 (⑥木村吉彦/4回) 幼小連携の実態と課題を教育政策の立場から概説し、また、小学校における生活科教科を通して接続教育を教授する。	オムニバス方式

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門発展科目	保育・教育の研究 卒業研究Ⅰ	<p>卒業研究は3年次前期から4年次後期の4期に渡って開設し、卒業必修とする。授業は演習形式で、週2時間連続して行う。原則として担当する指導教官14名(専任教員)の専攻する分野について研究させ、一領域から教育・保育を探究する力を養い、独自の理論や技術を構築することを目的に教授する。研究の形態や発表方法は問わないが、研究を共同で行う場合は、それぞれの担当箇所を明確にすることが必要である。研究に対する評価は、2名ずつの教員グループを7パート編成し、評価のための審査を行い、可否を判定する。判定の結果、“否”となった学生については、指定された期日までに加筆訂正等の見直しを行い、再度審査を受ける。また、学生には学内行事として開催する「子どもフォーラム」での発表を必須条件として課すものとする。</p> <p>「卒業研究Ⅰ」は保育・教育に関する諸問題について自ら問題意識をもち、問題点を明確にするとともに基礎的な研究方法と内容について理解することを目標とし、研究のための土台を形成する科目とする。</p>	
専門発展科目	保育・教育の研究 卒業研究Ⅱ	<p>卒業研究は3年次前期から4年次後期の4期に渡って開設し、卒業必修とする。授業は演習形式で、週2時間連続して行う。原則として担当する指導教官14名(専任教員)の専攻する分野について研究させ、一領域から教育・保育を探究する力を養い、独自の理論や技術を構築することを目的に教授する。研究の形態や発表方法は問わないが、研究を共同で行う場合は、それぞれの担当箇所を明確にすることが必要である。研究に対する評価は、2名ずつの教員グループを7パート編成し、評価のための審査を行い、可否を判定する。判定の結果、“否”となった学生については、指定された期日までに加筆訂正等の見直しを行い、再度審査を受ける。また、学生には学内行事として開催する「子どもフォーラム」での発表を必須条件として課すものとする。</p> <p>「卒業研究Ⅱ」は実際に研究を進める段階で、各自が設定したテーマについて、必要な資料や文献を収集させ、研究の素材の活用や分析の方法等を教授する。また、定期的に構想発表等の機会を設け、ゼミナール内で学生相互にディスカッションを行い、研究の形を築いていく。</p>	
専門発展科目	保育・教育の研究 卒業研究Ⅲ	<p>卒業研究は3年次前期から4年次後期の4期に渡って開設し、卒業必修とする。授業は演習形式で、週2時間連続して行う。原則として担当する指導教官14名(専任教員)の専攻する分野について研究させ、一領域から教育・保育を探究する力を養い、独自の理論や技術を構築することを目的に教授する。研究の形態や発表方法は問わないが、研究を共同で行う場合は、それぞれの担当箇所を明確にすることが必要である。研究に対する評価は、2名ずつの教員グループを7パート編成し、評価のための審査を行い、可否を判定する。判定の結果、“否”となった学生については、指定された期日までに加筆訂正等の見直しを行い、再度審査を受ける。また、学生には学内行事として開催する「子どもフォーラム」での発表を必須条件として課すものとする。</p> <p>「卒業研究Ⅲ」は徐々に研究を形にあらわしていく段階で、調査などを行う研究の場合はこの時期に実施するように指導する。また、中間発表の機会を設け、自己の見解を加えて論理的に発表することができるように教授していく。</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門発展科目	保育・教育の研究 卒業研究Ⅳ	卒業研究は3年次前期から4年次後期の4期に渡って開設し、卒業必修とする。授業は演習形式で、週2時間連続で行う。原則として担当する指導教官14名(専任教員)の専攻する分野について研究させ、一領域から教育・保育を探究する力を養い、独自の理論や技術を構築することを目的に教授する。研究の形態や発表方法は問わないが、研究を共同で行う場合は、それぞれの担当箇所を明確にすることが必要である。研究に対する評価は、2名ずつの教員グループを7パート編成し、評価のための審査を行い、可否を判定する。判定の結果、“否”となった学生については、指定された期日までに加筆訂正等の見直しを行い、再度審査を受ける。また、学生には学内行事として開催する「子どもフォーラム」での発表を必須条件として課すものとする。「卒業研究Ⅳ」は仕上げの段階である。これまでの研究成果をまとめ、完成へ導く指導を行う。また、ゼミナール内で評価審査や子どもフォーラムでの発表を想定した、最終発表の機会を設け、プレゼンテーションや質疑への応答の方法を教授する。	
専門発展科目	キャリア支援 キャリア演習A	演習形態の授業を通して、小学校教諭としての豊かな児童観、保護者・地域の信頼に値する豊かな教養、高い倫理観、および教育に関する幅広い教養を身につけさせることを目的とする。小学校教諭免許状取得に必要な他の科目で身につけた専門性を発揮し、小学校教育にあたることは勿論であるが、本授業では、時事的な問題をとり上げての討論を繰り返すことで、それをより広い視野から振り返らせることで補い、卒業後も自らを高める契機を得られるよう指導する。	
専門発展科目	キャリア支援 キャリア演習B	演習形態の授業を通して、幼稚園教諭としての豊かな子ども観、保護者・地域の信頼に値する豊かな教養、高い倫理観、および教育に関する幅広い教養を身につけさせることを目的とする。幼稚園教諭免許状取得に必要な他の科目で身につけた専門性を発揮し、幼稚園教育にあたることは勿論であるが、本授業では、法令や報道、判決や統計等を題材に演習を行うことで、それをより広い視野から振り返らせることで補い、卒業後も自らを高める契機を得られるよう指導する。	
専門発展科目	キャリア支援 キャリア演習C	演習形態の授業を通して、保育士として乳幼児の生活や、乳幼児を取り巻く社会環境を適切に理解させるとともに、保護者・地域の信頼に値する豊かな教養と倫理観等を身につけることを目的とする。そのために、関連する法令等その他、最新の報道や各種統計を用いた演習を行う。また、保育園の園長講話を通して現場の実情や課題の理解を深める。その上で、保育士の資質・役割、世代間交流の意義やそこでの留意点について適切に説明できる力を養う。	